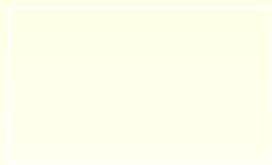


令和7年度 所 報

～事業の成果と記録～



独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立諫早青少年自然の家



目 次

I	事業実績一覧	
	1 防災・減災教育	7
	2 地域探究オリエンテーション合宿	12
	3 家族で体験フェスティバル2025	15
	4 いさはやマルチスポーツ体験キャンプ2025	18
	5 タラッキー「eco」キャンプ	21
	6 生活・自立支援キャンプ	26
	7 International Adventure Day	30
	8 NEALリーダー養成事業	33
	9 自然体験ボランティア養成研修	36
	10 ボランティア「自主企画事業支援プロジェクト」	39
II	事業管理運営の記録	42
III	管理運営状況	48
IV	施設業務運営委員会	51
V	組織図・職員名簿	52

I 事業実績一覧

No	事業名	事業趣旨	期日	対象	募集(人)	実施(人)
1 青少年教育に関するモデル的事業						
ア 実践研究事業 イ 地域の実情を踏まえた特色あるプログラム事業(特色化事業)						
1	防災・減災教育	令和3～6年度に実施してきた内容をプログラム集にまとめ、広く青少年教育関係者等へ発信・普及するとともに研修支援プログラムとして提供します。				
ウ 地域探究プログラム						
2	全国高校生体験活動顕彰制度 「地域探究プログラム」オリエンテーション合宿 in 諫早：学校参加型	高校生が地域づくりや地域の課題解決などに関する体験活動を通して、課題発見・解決能力を高め、それぞれの実践活動の成果や自身の成長を適切に評価する力を身に付けることにより、新たな価値を創造する人材を育成するとともに、青少年の体験活動に関する社会的な認知を高めます。	【佐世保南高等学校】 4/22(火)～23(水)	高校1年生 (佐世保南高等学校)	80	80
2 社会の要請に応える体験活動等事業						
ア 親子・幼児等を対象に自然体験や読書活動などに親しむ機会と場を提供する事業						
3	体験フェスティバル2025 ～平和(PEACE)～	家族や仲間たちと様々な体験活動の楽しさを体感してもらうとともに、共に楽しく過ごす平和な時間の大切さを改めて考える機会とします。また、本事業の取組を通じて、関係団体との連携をより一層緊密にし、地域における体験活動の定着・発展を推進します。	11/24(月・祝)	幼児や小・中・高・大学生のいる家族等	制限なし	703
イ 青少年を対象に体験活動を通じた自己成長や自己実現等を図る事業						
4	いさはやマルチスポーツ体験キャンプ2025	複数のスポーツを体験することにより、子どもたちが興味をもてるスポーツとの「出会い」を創出し、バランスのよい身体づくりや動きを実感する機会を提供します。	10/25(土)～26(日)	小学3年生～6年生	90	86
ウ 防災・減災教育事業						
1	【再掲】防災・減災教育	令和3～6年度に実施してきた内容をプログラム集にまとめ、広く青少年教育関係者等へ発信・普及するとともに研修支援プログラムとして提供します。				

No	事業名	事業趣旨	期日	対象	募集 (人)	実施 (人)
エ 環境教育や人権教育などのESDに対応した事業						
5	タラッキー「eco」キャンプ	参加年齢の異なる2つのキャンプを設定し、発達段階にあわせて内容を踏まえた体験活動を提供し、子どもたちが美しい「山と川」を守るために、「自分たちに何ができるか」について考える機会を提供することを目指します。	①7/5(土)～6(日) ②9/13(土) ～15(月・祝)	①小学3年生 ・4年生 ②小学5年生 ・6年生	①40 ②20	①38 ②15
オ 健康教育や主権者教育など政策課題に対応した教育事業						
カ その他						
3 課題を抱える青少年を支援する体験活動事業						
ア 課題を抱える青少年を支援する体験活動事業						
6	生活・自立支援キャンプ (ひとり親家庭の子ども支援事業) 「わくわくチャレンジキャンプ」	ひとり親家庭の子どもたちが、共同宿泊生活体験を通して、「早寝早起き朝ごはん」や「調理」といった基本的な生活習慣の定着につながるきっかけを提供します。また、諫早自然の家で感じる事ができる自然の美しさを味わい、仲間と協力し、助け合いながら活動することで、信頼や協力する心を育みます。	12/20(土)～21(日)	小学2年生 ～高校1年生	30	11
4 グローバル人材の育成を見据えた国際交流事業						
ア 日独の青年及び青少年指導者等の交流事業						
※本部主催の国際交流事業が主						
イ 国内での国際交流事業(SDGsを踏まえた外国語を使った国際交流プログラム開発事業等)						
7	(諫早市教育委員会委託事業) International Adventure Day ～Let's enjoy English!～	自然の中で英語を聞いたり、話したり、人に伝えたりする活動や外国人との交流を通して、英語でのコミュニケーションを図ることの楽しさを感じるにより、コミュニケーションを図る素地となる資質を育てます。	9/27(土)日帰り	諫早市内の 小学4年生	45	24

No	事業名	事業趣旨	期日	対象	募集 (人)	実施 (人)
5 青少年教育指導者等の養成及び資質の向上に関する事業						
ア 青少年指導者等の養成・研修事業						
a 自然体験活動指導者(NEAL)養成事業						
8	自然体験活動指導者(NEALリーダー)養成事業	自然体験活動指導者認定制度のもと、自然体験活動指導者(NEALリーダー)の資格取得に必要な講習会(概論Ⅰ)を開催し、専門的な知識と技術をもって自然体験活動の普及や振興に貢献する指導者を養成します。	11/1(土)~3(月・祝)	大学生、社会人	15	13
b その他						
イ 読書活動に関する専門的な指導者養成事業の推進						
ウ ボランティアの養成・研修事業						
a ボランティアの養成事業						
9	自然体験活動ボランティア養成研修	青少年の体験活動事業で活動するボランティアスタッフに求められる基礎的な知識・技術を習得するとともに、ボランティア活動への参加意欲を高めます。	6/14(土)~15(日)	高校生、高等専門学校生、大学生、社会人	45	17
b ボランティアの研修事業						
c ボランティアによる自主企画事業						
10	ボランティア「自主企画事業支援プロジェクト」	小学4~6年生を対象に、オリエンテーリングやクラフトなどの自然体験活動を通して、仲間とコミュニケーションを図りながらミッションに挑戦する力や、自分の考えを伝える力を育むことを目指します。	12/6(土)~7(日)	小学4年生~6年生	40	34

No	事業名	事業趣旨	期日	対象	募集(人)	実施(人)
※ 特別研修支援関係						
	キャンプの日	毎月第3日曜日を「キャンプの日」に制定し、キャンプ等の自然体験活動を推進する機運を高め、家族等の利用促進を図ります。	5、6、9、11、3月 第3日曜日 デイキャンプを実施 前日土曜日からの宿泊あり (5、10月)	幼児や小・中・高・大学生のいる家族	土は8 家族 日は制 限なし	
	環境教育プロジェクト (九電みらい財団連携事業)	長崎県諫早市と協定締結し、森づくりに取り組んでいる「いさはや九電みらいの森」において、講話で地球温暖化の現状や森の役割等について学び、育林等体験を通して、講話で学んだことを実感し理解を深めます。	①6/19 ②6/20 ③6/26 ④6/27 ⑤11/5 ⑥11/6 ⑦11/13 ⑧11/14 ⑨11/18 ⑩11/20	小学生 (4年生以上推奨) (11団体)	-	
	不登校・引きこもり等の課題を抱える 青少年の支援事業 「自然の家にきてみんなね」	自然の家では様々な体験活動を通して、自然の中で心身のリフレッシュ、新しい活動へのチャレンジ、キャンプに参加する仲間とのつながりなど、新しい一歩をふみだすことのできるきっかけを作ります。また、医療・福祉・教育などの適切な関係機関につながるよう支援します。	通年「きてみんなね」 (通常期:常時相談)	不登校・引きこもり等の児童・生徒	-	
	諫早市少年センター(適応指導教室)	体験活動を通して、協調性・自主性・耐性・感謝の気持ちを育てます。	①6/5、6 ②9/5 ③10/2、3 ⑤11/21 ⑥12/5 ⑥ 3/3	適応指導教室に通う児童及び生徒	各10 程度	
	宿泊体験学習事前研修会	諫早青少年自然の家を利用して宿泊体験学習を実施する小学校が、目的やねらいを明確にした、より教育効果の高い活動プログラムを計画できるようにするために、各校の担当者を対象とした事前研修及びプログラム調整会を行います。	大牟田 ①6/10(火) 長崎 ②8/4(月) ③8/5(火) ④8/22(金)	本施設利用団体の担当者	①21 ②28 ③67 ④42	
	子どもゆめ基金助成金募集説明会	子どもゆめ基金助成金募集説明会を開催し、広く当基金の存在を周知することで、体験活動を推進する機運の向上を図ります。	5/18(土) 9/14(土) (佐賀・長崎合同開催)	青少年団体関係者等	20	

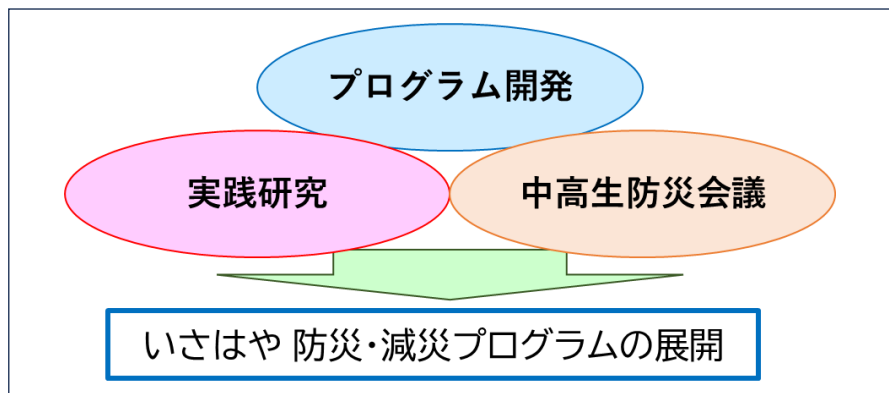
- 1 青少年教育に関するモデル的事業
 ア 実践研究事業
 イ 地域の実情を踏まえた特色あるプログラム事業（特色化事業）

防災・減災教育（いさはや防災・減災プログラム）

1)趣旨

第4期中期目標期間（令和3～7年度）における「特色あるプログラムの開発」「実践研究事業」は、災害時に主体的に物事を判断し行動する力や互いに協力して生き抜こうとする態度を育み、防災・減災について自主的に学び考え続ける青少年を育成することを共通の目的として、取り組んできた事業です。

また、「全国中学生・高校生防災会議」を長崎県で開催することで、防災・減災に関する中学生・高校生の防災意識と社会参画意識向上の機運を高めることを目指しました。



2)令和3年から6年度までの取組概要

①特色あるプログラムの開発及び実践研究

令和3年度

○プチサバイブキャンプ

〔期日・参加者〕 令和3年11月6日（土）～7日（日）1泊2日
 児童・生徒24名

〔概要〕「避難所の設営」「食料配給」「水の確保」「火おこし」



令和4年度

○ハイパーレスキューチームスタートアップキャンプ

〔期日・参加者〕 令和4年9月17日（土）
 児童16名

〔概要〕「火災発生時の対応」「ケガ人への対応」



令和5年度

○自然の家ハイパーレスキューチームキャンプ

〔期日・参加者〕 令和5年11月3日（金）～5日（日）2泊3日
 児童23名

〔概要〕「防災クイズラリー」「ロープワーク」「避難所体験」「防災食」等



○「いさはや防災教育プログラム」の開発

- ・8つの選択プログラムを設定

令和6年度

○防災ARクイズラリーを開発、「いさはや防災教育プログラム」に加える（別紙参照）

・研究協力者 関西学院大学 甲斐知彦 教授

○諫早市立諫早小学校宿泊体験学習

〔期日・参加者〕 令和6年10月22日（火）～23日（水）1泊2日
児童81名

〔概要〕「パッククッキング」「防災バッグづくり」「応急手当訓練」等

○日高アウトドアフォーラムでの発表

〔期日〕 令和5年11月15日（金）～17日（日）

○報告書（リーフレット）「いさはや防災プログラム」作成・公表

・特色化プログラム・実践研究の成果と課題、検証と今後の方向性を提示



②中学生・高校生防災会議

令和5年度

○長崎県中学生・高校生防災会議

〔期日・参加者〕 令和5年12月9日（土）
中学生・高校生36名、教員3名

〔概要〕 講義「東日本大震災における福島は今」「災害と向き合う中高生たち」
協議「わたしたちにできること」



令和6年度

○全国中学生・高校生防災会議「全国防災ジュニアリーダー育成合宿」

〔期日・参加者〕 事前オンライン 令和6年12月7日（土）
合宿 令和6年12月20日（金）～22日（日）2泊3日
事後オンライン 令和7年2月26日（水）
98名（生徒57名、教員27名、その他14名）

〔概要〕 講義「DMA Tの活動」「屋外フィールドワーク」
「パネルディスカッション」
「アクションプラン作成・発表」



3)令和7年度「いさはや防災教育プログラム」の展開

①長崎精道小学校2ndステージ 宿泊体験学習

〔期日〕

・令和7年9月8日（月）～9日（火）1泊2日

〔活動場所〕

・国立諫早青少年自然の家（環境学習館、OR室、2階ロビーなど）

〔参加者〕

・47名（小学校5年生～中学校1年生）

〔担当職員〕

・中里文彦 他、長崎精道小学校職員8名

〔プログラムの概要〕

・「防災バッグづくり」「ロープワーク」「防災ARクイズラリー」「パッククッキング（カレー）」



〔成果と課題〕

- ・児童生徒が体験する前に、先生方が実際に体験し、一緒に準備していくことで、学校と自然の家で協力して取り組む体制ができたことが収穫でした。
- ・児童生徒や先生方からの実施後提示された改善意見やアンケートの結果をもとに、プログラムのブラッシュアップを図ることができました。11月実施の他校の取り組みに向けた準備ともなりました。
- ・「パッキング（カレー）」では、湯煎でカレー作りに取り組みましたが、野外炊事の材料に生肉を使用していたため、衛生面が心配されました。次年度から魚肉ソーセージを使用することにしました。

②諫早市立諫早小学校 宿泊体験学習

〔期日〕

- ・令和7年11月6日（木）～7（金）1泊2日

〔活動場所〕

- ・国立諫早青少年自然の家（野外炊事場、プレイホール、学習室1）

〔参加者〕

- ・63名（小学校5年生）

〔担当職員〕

- ・日高由樹 他、諫早小学校職員6名

〔プログラムの概要〕

- ・「パッキング（カレー）」「ロープワーク」「防災バッグづくり」

〔成果と課題〕

- ・「防災バッグづくり」では、避難の際に必要となりそうなものを選んだり、リュックに詰めたり、実際にどれくらい運べるかを体験することで、子どもたちの理解がすすんだようです。
- ・「ロープワーク」では、基本の結び方を確認した後、ゲーム形式で取り組んだら、子どもたちが興味・関心をもって取り組む姿が印象的でした。



③諫早市立長田小学校 出前講座

〔期日〕

- ・令和7年11月19日（水）

〔活動場所〕

- ・諫早市立長田小学校（音楽室・体育館）

〔参加者〕

- ・80名（小学校3年生40名、小学校4年生40名）

〔担当職員〕

- ・高山雄也 他、長田小学校職員

〔プログラムの概要〕

- ・「防災バッグづくり（3年生）」「防災ARクイズラリー（4年生）」

〔成果と課題〕

- ・多くの子どもたちが積極的に取り組み、校長先生から次年度の継続的な実施と1～6年生までの学年別のプログラム実施の提案があり、所内で検討を始めました。



- ・「防災バッグづくり」では、現在の実施内容は、小学5年生以上が適齢年齢だと判断できたので、今後、4年生以下でも学べる内容などを検討、準備していきます。
- ・「防災ARクイズラリー」では、複数回実施する中で、①幼児～4年生と②5年生以上の2つの実態に分け、発達段階に応じた提供をすることが大切だと分かり、現在ブラッシュアップを進めています。

④「わくわく体験フェスタ」ブース出展

〔期日〕

- ・令和8年2月14日（土）、15日（日）各日帰り

〔活動場所〕

- ・イオンモール橿原（Noniwa コート）

〔参加者〕

- ・302名

〔担当職員〕

- ・中里文彦、日高由樹

〔プログラムの概要〕

- ・「防災ARクイズラリー」

〔成果と課題〕

- ・家族層になじみのあるイオンモールを会場に「防災ARクイズラリー」を行ったことで、普段あまり防災に関心のない方々にも体験してもらうことができました。
- ・参加者の方からは、「楽しかった」という声に加え、「防災について学べた」「家に帰ったら避難経路を確認したい」といった声も聞かれました。
- ・ブース出展では参加者の多くが幼稚園・保育園生～小学校低学年までの子どもたちであったため、発達段階を考慮したアプリケーションに修正していく必要があることが分かりました。



予測できない自然災害に備えるために。
未来を生きる子どもたちへ、“命を守る学び”を届けます。

いさはや防災教育プログラム活動一覧



【活動】 防災ARクイズラリー **1**

【内容】
タブレットを使ってクイズを解きながら、防災減災に関する正しい知識や行動を学ぼう。



【活動】 災害時に役立つ ロープワーク **2**

【内容】
ロープの様々な活用方法を学ぼう。



【活動】 あなたの防災 バックの中身は？ **3**

【内容】
防災バックに入れるものを自分たちなりに考えよう。



【活動】 防災野外炊事 (バッククッキング) **4**

【内容】
被災時にも、少ない水と火で調理できることを体験しよう。



【活動】 防災食体験 **5**

【内容】
防災食を実際に食べることで、平常時との違いや食の大切さを理解しよう。



【活動】 応急手当訓練 **6**

【内容】
災害時に怪我をした時の手当について理解し、処置ができるようになろう。



【活動】 消火訓練 (水消火器) **7**

【内容】
地震の影響による火災発生時に、初期消火ができる技術を身に付けよう。



【活動】 避難所体験 **8**

【内容】
電気、水道、ガスが使用できない状況で宿泊してみよう。

1 青少年教育に関するモデル的事業
ウ 地域探究プログラム



全国高校生体験活動顕彰制度
「地域探究プログラム」オリエンテーション合宿 in 諫早
学校参加型:佐世保南高校文理探究科1年生

〔主催〕 国立諫早青少年自然の家
〔協力〕 諫早市危機管理課
〔期日〕 令和7年4月22日(火)10:00 ~ 23日(水)15:00 【1泊2日】
〔会場〕 国立諫早青少年自然の家、諫早市中央公民館、諫早公園、本明川周辺
〔参加者〕 佐世保南高校文理探究科1年生 80名
〔担当職員〕 中里 文彦、戸越 信吾、貞方 貴衣、吉田 流風、高山 雄也、日高 由樹

1)趣旨

高校生が地域づくりや地域の課題解決などに関する体験活動を通して、課題発見・解決能力を高め、それぞれの実践活動の成果や自身の成長を適切に評価する力を身に付けることにより、新たな価値を創造する人材を育成するとともに、青少年の体験活動に関する社会的な認知を高めます。

2)SDGsで目指す姿

 <p>4 質の高い教育を みんなに</p>	 <p>13 気候変動に 具体的な対策を</p>	<p>目標4 質の高い教育をみんなに 全ての子供たちに質の高い自然体験活動を提供し、自尊感情の向上を図ります。</p> <p>目標13 気候変動に具体的な対策を 気候関連災害や自然災害に対する強靱性(レジリエンス)及び適応の能力を強化します。</p>
---	---	---

3)目標

- ①入学間もない生徒間の人間関係を深め、参加者の協調性やコミュニケーション力の向上と、協働的な学びの礎を築きます。
- ②探究活動のプロセスを学び、疑似的に経験することで、今後の探究活動への意欲を高めます。

4)プログラム

1日目(4月22日)	
<p>10:15 【ガイダンス】 開始式、DVD視聴、講話 【写真1】</p> <p>11:45 【フィールドワーク(まち歩き)】 【写真2】</p> <p>12:45 自然の家へ移動(大型バス)</p> <p>13:45 昼食(持参弁当)</p> <p>14:15 入所式、オリエンテーション</p> <p>15:00 【講義①】 防災マップの見方、防災・減災について</p>	<p>16:00 【講義・演習①】 防災マップについて考察①</p> <p>17:00 防災マップについて考察②</p> <p>18:00 夕食(レストラン)</p> <p>19:15 入浴、休憩</p> <p>20:30 振り返りなど</p> <p>22:00 就寝準備、就寝</p>

2日目(4月23日)	
6:30 起床	12:00 昼食(レストラン)
7:15 朝のつどい	13:00 【発表②】 【写真4】 学校周辺防災マップの考察結果発表
7:30 朝食、宿泊棟清掃	14:00 【実践活動のためのガイダンス】 社会のルール・マナーについて
9:00 【発表①】 【写真3】 諫早市防災マップの考察結果発表	15:00 自然の家出発
10:00 【講義・演習②】 【写真4】 学校周辺の防災マップの考察	

5)事業展開

1 【ガイダンス:開始式、DVD視聴、講話】 【写真1】



諫早大水害のDVDを視聴したり、古賀氏の講話を聞いたりして、防災・減災について自分事として、考えるきっかけとなりました。

2 【フィールドワーク(まち歩き)】 【写真2】



諫早市の防災を題材に探究活動を行いました。

諫早大水害の被災状況等について学ぶために、諫早市危機管理課のスタッフに説明していただき、市街地のフィールドワーク(まち歩き)を行いました。

3 【講義・演習①】 【発表①】 【写真3】

諫早市の防災マップについて考察し、班ごとにまとめ、発表会を行いました。

防災マップの見方や防災・減災についての講義のあと、フィールドワーク等で得た情報をまとめ、講師に対して質疑を行いながら考察を深めました。最後に小グループごとに発表会を実施し、感じたことや学んだことなどを発表しました。



4 [講義・演習②] [発表②] [実践活動のためのガイダンス] 【写真4】



諫早市内の防災についての探究活動をもとに、佐世保市内の自分が生活している地域や学校周辺の防災マップについて探究活動を行いました。

4つの小グループごとに異なる地域の防災マップについて、“自助・公助・共助”の視点を持ち、「自分たちにできることは何か」、「被害を少なくするために事前にできることは何かがあるか」等、自分事として考え、班の中で議論しながら「他のグループに伝えたこと」をまとめ、小グループ内で発表会を実施しました。その後、グループごとに代表を1班選び、全体の前で発表を行いました。

最後に、所員より、今後の学習の進め方についてのポイントや注意点等の説明を行いました。

6) 評価

① アンケート結果(事業全体に対する満足度)

満足	やや満足	やや不満	不満
90%	10%	0%	0%

② 参加者の声

- ・チームで協力ができ、テーマに沿って探究活動の基礎に触れることができたからよかったです。
- ・他のメンバーと積極的に話し、1つの課題へ取り組み、円滑に進めることができたので、よかったです。
- ・講話を聞くだけでなく、それをふまえた意見交流の時間がたくさんあって充実していました。
- ・これから行う探究活動の仕方を知れたり、災害について多くのことを学んだりすることができました。
- ・講話やフィールドワークなど、普段できない体験ができ、地域について考えるきっかけになりました。
- ・防災について学ぶことができ、自分事として捉えるようになりました。
- ・悩んでいた際に、自然の家の職員の助言が的確で、スムーズに活動を進めることができました。

7) 成果と課題

① 成果

- ・短期間での準備だったが、諫早市危機管理課の皆様に様々なサポートをいただき、連携しながら事業を進めることができました。
- ・毎年試行錯誤しながらの実施ではあったが、今回の佐世保南高等学校の取り組みを通して、“諫早青少年自然の家”としての「地域探究プログラム」オリエンテーション合宿の形をほぼ固めることができました。

② 課題

- ・年度初めで担当の先生が決まってから事業までの期間が短いので、新年度入ってからすぐに学校を訪問し、活動内容を決める打合せをしたり、短期間で連絡を密に取ったりする必要性がありました。

- 2 社会の要請にこたえる体験活動等事業
 ア 親子・幼児等を対象に自然体験や読書活動などに親しむ機会と場を提供する事業

令和7年度 佐賀・長崎地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業
 体験フェスティバル2025 ～平和（PEACE）～

- 〔主催〕 国立諫早青少年自然の家
 （企画・運営：佐賀・長崎地域ぐるみで「体験の風をおこそう運動」推進実行委員会）
 〔期 日〕 令和7年11月24日（月・祝）10:00～15:30
 〔活動場所〕 国立諫早青少年自然の家
 〔参加者〕 190家族 703名
 〔協力団体〕 諫早市こどもの城、コスモス花宇宙館、佐賀県・長崎県青少年教育施設、日本ボーイスカウト長崎県連盟、ガールスカウト長崎県連盟、諫早消防署、自衛隊長崎地方協力本部諫早地域事務所、長崎河川国道事務所、長崎県シェアリングネイチャー協会、長崎県レクリエーション協会、諫早市子ども会育成連合会、HAPPY VOICE、合同会社グロース、長田町婦人会、白木峰高原育成会、ハッピーバルーン、ふれあい移動動物園オスカー'S、(有)菅原産業、コンパスグループ・ジャパン(株)諫早店、NPO 法人インフィニティー、自然環境ネットながさき、HUMMING BIRD、*Hare*
 〔担当職員〕 全職員

1) 事業の趣旨

家族や仲間たちと様々な体験活動の楽しさを体感してもらうとともに、共に楽しく過ごす平和な時間の大切さを改めて考える機会とします。また、本事業の取組を通じて、関係団体との連携をより一層緊密にし、地域における体験活動の定着・発展を推進します。

2) 目標

- ①多くの家族に体験活動の楽しさを知ってほしい。
- ②多くの団体と連携して、楽しい活動を提供したい。
- ③体験活動の重要性について普及と啓発を図る。
- ④家族や仲間と過ごす平和な時間を改めて考える機会とする。

3) プログラム

日帰りプログラム	
10:00	活動開始
	・ステージイベント ①10:00～ ②10:40～ ③13:00～ ※①ミニコンサート ②③三線演奏&ダンス
	・特別プログラム ①11:10～ ②13:40～ ※鷹パフォーマンスショー
	・キャンプ体験 [火起こし・たき火体験、薪割り体験、テント体験、ネイチャーゲーム]

- ・防災/しごと体験 [煙体験ハウス、消火器操法、自衛隊車両の展示、自衛隊制服試着、治水 模型展示、浸水 VR 体験、働くくるま体験、タブレットを使った防災ウォークラリー]
- ・あそび体験 [クップ・モルック体験、スポーツチャンバラ、小動物ふれあい体験]
- ・クラフト製作 [凧づくり、ペンダントづくり、ガラスサンドアート、クリスマスリースづくり、ヒンメリ製作、革を使ったキーホルダー製作、ノッティングボード製作等]
- ・食事/交流ブース [軽食販売、キッチンカー、農産物販売、雑貨販売、フリー相談コーナー]

15:30 終了

4) 事業展開

YUNA さんとコーチのミニコンサート



三線演奏&ダンス



鷹パフォーマンスショー



火起こし体験



自衛隊車両展示 (制服試着)



働くくるま体験



クップ・モルック体験



ガラスサンドアート



クリスマスリースづくり



5) 評価

① アンケート結果（事業全体に対する満足度）

良かった	まあ良かった	あまり良くなかった	悪かった
89%	11%	0%	0%

② 参加者の声

- ・はじめて来ましたが、また来たいと思いました。とても良かったです。
- ・子供たちが楽しんでいました。
- ・YUNAさんの素晴らしい歌声に感動しました。
- ・普段体験できないことを、たくさん体験できて良かったです。
- ・ロープワーク、火おこし体験、まき割りが楽しかった。モルックも盛り上がりました！
- ・レストランのメニューが格安でおいしかったです。何十年ぶりに自然の家に来て、懐かしかったです。
- ・素敵な体験で良かったのですが、有料のブースははっきりとしたわかりやすい表示にしてもらえたらよかったです。

6) 成果と課題

① 成果

- ・今年度は毎年10月末の開催日（昨年度に限っては2月開催）を教育事業との兼ね合いもあり、1か月遅らせて11月末の祝日に開催しました。元々10月末の開催については、気候的にも安定した行楽シーズンであるため、様々なイベントが各地で開催されていることから、例年、本イベントへの集客が伸び悩んでいましたが、開催時期をずらしたことにより、10月末開催時よりも1.5倍ほどの来館者がありました。また、長崎県を会場とした国民文化祭（ながさきピース文化祭 2025 開催期間：R06.09.14～R06.11.30）の開催期間中でもあったことから、イベントへの参加意欲が高まっていた影響も増加の要因と考えられます。
- ・広報については例年、諫早市内の公共施設や記者クラブへチラシを配布、SNS中心での広報を行っていましたが、今年度は加えて諫早市内の学童クラブ（定員数分）へチラシを配布したことから、初めて参加来場された家族の数が増える結果となりました。
- ・協力団体には国民文化祭に合わせたテーマ「平和・PEACE」を意識した活動を出展いただいたことで、テーマに沿ったイベントとなりました。また、多くの協力団体との連携をさらに深めることができました。
- ・アンケートを提出いただいた方には、景品（キラキラシール）を差し上げる試みを行ったところ、回収率を高めることができました。

② 課題

- ・駐車場から本会場への途中にイベント会場を設置していたことから、受付への誘導がはっきりしなかった。順路、動線をしっかりと考え、事前に案内するなど対策が必要でした。
- ・サテライト会場である近隣施設（コスモス花宇宙館）への集客があまりよくなかった。案内のやり方やサテライト会場の有無も含めて検討の余地があると感じました。
- ・各ブースとも人気があってよいことではあるが、「これを目当てにきました。」というリピーターのアンケートが多く、ブースのマンネリ化も否めないため、出展者の新規開拓や出展内容の変更交渉など続けていきます。

2 社会の要請に応える体験活動等事業
イ 青少年を対象に体験活動を通じた自己成長や自己実現等を図る事業

令和7年度 国立諫早青少年自然の家 教育事業
「いさはやマルチスポーツ体験キャンプ2025」



- 〔主 催〕 国立諫早青少年自然の家
 〔期 日〕 令和7年10月25日（土）～10月26日（日） 1泊2日
 〔活動場所〕 国立諫早青少年自然の家
 〔参加者〕 小学3年生～6年生（3年生29名、4年生29名、5、6年生28名）
 児童86名（男子41名、女子45名）
 〔担当職員〕 中里 文彦、高山 雄也、日高 由樹
 〔外部講師等〕 長崎県フェンシング協会19名（指導者5名、高校生スタッフ14名）
 長崎県アーチェリー協会23名（指導者4名、高校生スタッフ19名）
 長崎ヴェルカ3名（指導者3名）

1) 事業の趣旨

複数のスポーツを体験することにより、子どもたちが興味をもてるスポーツとの「出会い」を創出し、バランスのよい身体づくりや動きを実感する機会を提供します。

2) SDGs で目指す姿

	<p>目標4 質の高い教育をみんなに 仲間と協力する活動を通して、安心・安全な学習環境作りの指導方法を学びます。</p> <p>目標16 平和と公正をすべての人に 仲間と協力する活動を通して、参加型の意思決定を支援する指導方法を学びます。</p>
--	---

3) 目標

- ①みんなでスポーツとの出会いを楽しもう！
 ②さ・い・ふ・あっ・た：参加する・一生懸命・フェア（公平、公正）・安心、安全・楽しむ

4) 研修プログラム

1日目(10月25日)		2日目(10月26日)	
9:30	受付	6:30	起床
10:00	開講式、オリエンテーション①	7:15	朝のつどい
10:15	I-CAP ～仲間づくりの活動～【写真1】	7:30	朝食(レストラン) ～宿泊荷物整理、清掃～
11:45	昼食(レストラン)	9:30	スポーツ体験②(2.0h)
13:00	スポーツ体験①(2.0h)【写真2.3.4】	11:45	昼食(レストラン)
15:15	写真撮影→オリエンテーション②	13:00	スポーツ体験③(2.0h)
16:30	ストレッチ&上手な体の動かし方など 【写真5】	15:30	閉講式
18:00	夕食(レストラン)	15:45	ふり返り【写真6】
19:15	レクリエーション	16:00	解散
20:15	入浴→ふり返り		
21:30	就寝準備→就寝		

5) 事業展開

【写真1】 I-CAP



3年生、4年生、5・6年生の3つのグループに分かれ、仲間づくりの活動やチームビルディングに取り組むことで、徐々に緊張がほぐれ、初めてあった人とも仲良くなることができました。

【写真3】 アーチェリー



子ども用の弓を使って基本動作を繰り返し練習した後に、約束事を守りながら本物の弓矢を使って、2～3m離れた的を目掛けて矢を放つと、「よし!」「ねらったところにいった!」「楽しい!」との声を多く聞くことができました。

【写真5】 ストレッチ、上手な体の動かし方



アーチェリーでは、「左右非対称の体操」、バスケットボールでは、「ボールを使った体操」、フェンシングでは、「反射トレーニング」などを行いました。

【写真2】 フェンシング



試合(高校生や指導者)を実際に見たり、プラスチックの剣や防具を使って動作を真似たり、剣で紙風船を狙ったりしながら、楽しそうに取り組む姿が印象的でした。

【写真4】 バスケットボール



コーチのお手本を見ながら、ドリブルやパス、シュートなどの練習を行ったり、ボールゲームに取り組んだりしました。ミニゲームでは、声をかけ合い、シュートが入った時は、ハイタッチをするなど楽しむことができました。

【写真6】 記念撮影



みんなで「諫早青少年自然のいえ〜い」の号令に合わせてポーズを取り、笑顔で記念撮影をすることができました。

6) 評価

① アンケート結果（事業全体に対する満足度）

満足	やや満足	やや不満	不満
86%	13%	1%	0%

② 参加者の声

- ・バスケットボールやアーチェリー、フェンシングは、新たなことができたからワクワクしました。
- ・最初は不安だったけど、とても楽しくて、また来たいと思いました。
- ・人とのコミュニケーションやスポーツの楽しさを知ることができて、スポーツをがんばろうと思いました。
- ・バスケットボールが楽しかったので、バスケットボールを始めてかんばりたいと思いました。
- ・アーチェリーが一番楽しかったので、アーチェリーを習おうと思いました。
- ・友だちがいっぱいできて、フェンシングが楽しかったです。
- ・スポーツには、仲間づくりや協力したりして楽しむことが大事だと思いました。
- ・ボランティアの人たちやスタッフの人たちみんなが優しく話しやすかったです。
- ・初めて会ったはずなのに、話しかけてくれたり、いっしょに協力したりすることができたので、楽しかったです。
- ・みんな全力でやれば、初めてのことでも楽しくなるということが分かりました。

7) 成果と課題

① 成果

- ・75名の募集定員に対して、180名の応募があった。スポーツ団体やボランティアスタッフの協力もあり、75名から90名へ定員を増員して実施することができました。
- ・スポーツ団体（バスケットボール、フェンシング、アーチェリー）との連携協力体制が構築でき、指導者やサポートスタッフが充実して、参加者が満足しスポーツ体験キャンプに参加することができました。参加者や保護者アンケートでは、満足度が高く、「来年も参加したい」「参加させたい」という意見が多くありました。
- ・宿泊部屋や食事などの班を3～6年生の縦割りにすることで、先輩がリーダーシップを取って、約束事を守って行動することができていました。
- ・前年度の「スポーツ体験の時間が長くて、後半集中力が続かないことがあった」との反省から、スポーツ体験時間を2.5h→2.0hに変更して実施することで、活動に集中したり休憩時間も取ったりすることができ、参加者や指導、スタッフにも好評でした。
- ・前年度に引き続き、新しい友だちづくりや複数のスポーツ体験ができる場を提供したり、バランスのとれた体づくり（きっかけづくり）をしたりすることができました。

② 課題

- ・定員を90名に増員しましたが、直前1か月以内の家庭の都合でのキャンセルが多かったです。その都度参加者を補充しながら86名（4名体調不良などで不参加）を確保できましたが、次年度は、スケジュールやキャンセル規定などを確認して申込みように案内（チラシやホームページに注意事項を記載）していきたいです。
- ・1班30名の3班（3年生、4年生、5・6年生）で実施したが、活動によっては少し手狭になることがあったので、25名程度の実施ができれば、活動スペースにさらに余裕ができそうです。

2 社会の要請に応える体験活動等事業
エ 環境教育や人権教育などの ESD に対応した事業





タラッキー「ECO」キャンプ
～「山と川」をフィールドに「eco」る、いさはやキッズ～

〔主催〕 国立諫早青少年自然の家
〔協力〕 NPO 法人 環境保全教育研究所
〔後援〕 長崎県教育委員会、諫早市
〔期日〕 ①令和7年7月5日(土)～6日(日) 1泊2日
②令和7年9月13日(土)～15日(月・祝) 2泊3日
〔活動場所〕 国立諫早青少年自然の家、多良山系周辺
〔参加者〕 ①38名(小学校3～4年生対象)
②17名(小学校5～6年生対象)
〔担当職員〕 貞方 貴衣、戸越 信吾、吉田 流風、高山 雄也 他

1) 事業の趣旨

参加年齢の異なる2つのキャンプを設定し、発達段階にあわせて内容を踏まえた体験活動を提供し、子どもたちが美しい「山と川」を守るために、「自分たちに何ができるか」について考える機会を提供することを目指します。

2) SDGsとの関わり

		<p>目標4 質の高い教育をみんなに 質の高い自然体験活動を提供し、自尊感情の向上を図ります。</p> <p>目標14 海の豊かさを守ろう 山から見える海を感じ、自然を守ることの大切さを考えます。</p> <p>目標15 陸の豊かさも守ろう 川や山を巡る体験を通して川や森の美しさ、自然を守ることの大切さを考える機会とします。</p> <p>目標17 パートナリーシップで目標を達成しよう 仲間と困難に立ち向かい、声を掛け合いながら克服する喜びを味わいます。</p>
		

3) 目標

- ①ア：山と川・森のつながりを考え、自然の大切さを感じよう！
イ：仲間と協力してつながりを感じよう！
- ②ア：【水・森・火と人】のつながりを考えよう！
イ：【人と人】のつながりを感じよう！

4) 事業プログラム

①令和7年7月5日(土)～6日(日) 1泊2日

1日目 7月5日(土)	2日目 7月6日(日)
10:00 集合、はじまりの会、アイスブレイク	6:30 起床、朝のつどい(ラジオ体操)
11:00 講義【森と水について学ぼう!】 《写真1》	朝食(レストラン) 後片付け
12:00 昼食(持参弁当)	9:00 <u>ハイキング</u> を通して考えよう 《写真3》
13:00 <u>沢登り</u> を通して考えよう 《写真2》	12:00 昼食(レストラン弁当)
17:00 タベのつどい、夕食(レストラン)	13:00 振返り 【森と生活について学び考えよう!】 《写真4》
19:00 振返り	15:00 終わりの会・解散
20:00 入浴、休憩	
21:30 就寝	

②令和7年9月13日(土)～15日(月・祝) 2泊3日

1日目 9月13日(土)	2日目 9月14日(日)	3日目 9月15日(月・祝)
10:00 集合、はじまりの会 アイスブレイク 《写真5》	6:30 起床、朝のつどい 朝食(レストラン)	6:00 起床、朝のつどい 後片付け・点検
11:00 昼食(持参弁当)	9:00 講義 【森の木について学ぼう!】 《写真7》	朝食(早朝活動食)
12:00 <u>沢登り</u> を通して考えよう 《写真6》	10:30 <u>野外炊事</u> を通して考えよう(昼食) 《写真8》	8:00 <u>ハイキング</u> を を通して考えよう 昼食(レストラン弁当) 《写真11》
16:30 講義 【森と水について学ぼう!】	15:00 <u>焼き板</u> を通して考えよう 《写真9》	14:30 振返り 【森と生活について学び 考えよう!】 《写真12》
17:00 タベのつどい、入浴 夕食(レストラン)	17:00 タベのつどい 夕食(レストラン)	15:30 終わりの会・解散
19:00 振返り	19:00 キャンプファイヤー 《写真10》	
21:30 就寝	20:00 入浴、休憩	
	21:30 就寝	

5) 事業展開

①令和7年7月5日(土)～6日(日) 1泊2日

《写真1：講義》



講師から「森と水」をテーマに環境に関するお話がありました。導入として環境に対して考えるきっかけとなる時間となり、参加者はとても興味を持って聞くことができました。

《写真2：沢登り》



沢登りでは、大きな滝や冷たい水に歓声をあげながらゴールまでたどり着くことができました。水の冷たさを感じたり、生き物に触れたりしながら、「森と水」のつながりを感じました。

《写真3：ハイキング》



「すだらの森」までのハイキングのゴールには美味しい水が湧き出ています。大自然の中で飲む湧き水はとても美味しく、「おいしい！」と歓声を上げていました。

写真4：振り返り》



最後の振り返りでは、2日間で学んだことをまとめ、環境を守るために自分たちにできることは何か考える時間でした。また、キャンプの感想もお互いに伝え合うことができました。

②令和7年9月13日～15日 2泊3日

《写真5：アイスブレイク》



アイスブレイクでは、初めて知り合った子どもたち同士の仲を深めるゲームを行いました。はじめは緊張感漂う雰囲気でしたが、あっという間に場が和みました。

《写真6：沢登り》



沢登りを通して「森と水」のつながりについて感じ、考えました。天候が心配されましたが、みんなで協力し、無事にゴールへたどり着くことができました。

《写真7：講義》



「森の木」が人とどのようなつながりがあるかを学ぶために、講師からのお話を聞きました。「木・火・人」のつながりについても考えることができました。

《写真9：焼き板》



野外炊事の残り火で焼き板を作りました。焼いた板をブラシでこすると、きれいな木目が出てきます。作品から「森の木」の美しい温かみを感じました。また、残りの灰を利用して、灰石鹸も作りました。

《写真11：ハイキング》



すだらの森まで約6kmの道のりを班毎に歩きました。環境に関するクイズや、チームワークが試されるような課題に挑戦しながら進み、ゴールでは美味しい湧き水をいただきました。昼食のお弁当容器は前日に作った灰石鹸を使って洗浄し、環境にも配慮する方法を学びました。

《写真8：野外炊事》



森の木々を集め、薪として使用して野外炊事を行いました。火起こしに苦戦しながらも無事に焼そばを作ることができました。「森の木」を使った活動から「火と人」のつながりについて考えるきっかけとなりました。

《写真10：キャンプファイヤー》



キャンプファイヤーでは、火を囲みながらレクリエーションで盛り上がりました。火の長や女神はボランティアスタッフが演じ、子どもたちも終始楽しそうに過ごしていました。「火と人」のつながりを感じる時間を過ごせました。

《写真12：振り返り》



振り返りでは、まず「水・森・火と人」のつながりについて考え、お互いに発表し合いました。次に「人と人」のつながりについて感じるために、お互いに感想を伝え合いました。2日間のまとめとしてしっかりと自分の考えを発表できました。

6) 評価

① アンケート結果（事業全体に対する満足度）

	満足	やや満足	やや不満	不満
1回目	86%	11%	3%	0%
2回目	93%	7%	0%	0%

② 参加者の声

- ・人が生きていくのに水はとても大切だと分かった。
- ・ハイキングで6km歩くのはきつかったけどゴールまで歩いて良かったです。歩きながら励まし合ってよかったです。
- ・野外炊事など自分一人では絶対にできなくて、人と人との関係や協力が大事だと思った。

7) 成果と課題

① 成果

- ・全2回の事業共に、講師からの講義により、環境を守るための知識や水の大切さについての理解は深まった様子がうかがえました。
- ・活動を通して、同じグループのメンバーと協力し、とても仲良くなっていく様子がうかがえました。
- ・各回で学年を区別したことにより、対象に合わせた活動内容を考えることができました。活動の難易度や、振り返りの内容など対象に即して行うことで、理解度を深めることができました。
- ・全2回共に、ボランティアのサポートが手厚く、子どもたちに近いところで支援することができました。活動と活動の間の時間に適切な声掛けや、促しがあったため、怪我無く安全に事業を終えることができました。

② 課題

- ・全2回の事業共に、めあてが2つあったことから、活動の方向を考えることに時間を要しました。
振り返りの進行担当者を別の指導者にすることにより、混乱しないように心掛けましたが、中には難しいと感じる子どももいたようです。
- ・「環境教育」を「自然体験」の中で実施することの難しさを感じました。環境を守るための直接的な行動（例：ゴミ拾いなど）を活動としてプログラムに組み込むのではなく、沢登りやハイキングといった活動の中に見つけていく、というプログラム構成にしたため、参加者が本質の見極めや整理ができていない部分があったようです。

3課題を抱える青少年を支援する体験活動事業
 A課題を抱える青少年を支援する体験活動事業



令和7年度 国立諫早青少年自然の家 教育事業
 生活・自立支援キャンプ(ひとり親家庭の子ども支援事業)
 「わくわくチャレンジキャンプ」

- 〔主催〕 国立諫早青少年自然の家
 〔期 日〕 令和7年12月20日(土)～12月21日(日) 1泊2日
 〔活動場所〕 国立諫早青少年自然の家
 〔参加者〕 島原市・南島原市・雲仙市・諫早市・長崎市・西彼杵郡・大村市在住のひとり親家庭の
 小学2年生～高校1年生(男子7名、女子4名)
 〔担当職員〕 高山 雄也、吉田 流風
 〔協力〕 長崎県母子寡婦福祉連合会、ひとり親家庭福祉会ながさき、大村市母子寡婦福祉連合会
 島原市母子寡婦福祉会、島原市役所福祉保健部こども課こども家庭班

1) 事業の趣旨

ひとり親家庭の子どもたちが、共同宿泊生活体験を通して、「早寝早起き朝ごはん」や「調理」といった基本的な生活習慣の定着につながるきっかけを提供します。また、諫早自然の家で感じることができる自然の美しさを味わい、仲間と協力し、助け合いながら活動することで、信頼や協力する心を育みます。

2) SDGs で目指す姿

 	<p>目標2 飢餓をゼロに 野外炊事やバランスの良い食事を通して、安全な調理の仕方を学び、楽しい会食の雰囲気を楽しみます。</p> <p>目標4 質の高い教育をみんなに 自然の中での体験活動を通して、自然の大きな仕組みや生命の大切さを感じ取ります。</p>
---	--

3) 目標

- ①基本的な生活習慣を身に着ける
- ②仲間と協力する
- ③自分のことは自分でする

4) プログラム

1日目(12月20日)	2日目(12月21日)
10:00 諫早駅 送迎	6:30 起床
10:30 受付	7:15 朝のつどい
11:00 開会式、オリエンテーション 【写真1】	7:30 朝食(レストラン)
12:00 昼食(レストラン)	9:15 部屋点検
13:00 仲良くなるゲーム 【写真2】	10:00 ウォークラリー 【写真8】
15:30 野外炊事(パン・シチュー、夕食含む) 【写真3】	12:00 昼食(弁当)
19:00 ナイトハイク 【写真4】	13:00 クラフト活動 【写真9】
19:30 たき火 【写真5】	15:00 ふりかえり、閉会式 【写真10】
20:00 入浴、1日のふりかえり 【写真6】	15:30 送迎バス出発
21:15 読み聞かせ 【写真7】	16:00 諫早駅 解散
21:30 就寝	

5) 事業展開

【写真1】 開会式、オリエンテーション



本事業における3つの目標と2日間の流れを確認しました。

【写真2】 仲良くなるゲーム



様々な協力するゲームを通し、2日間一緒に活動する仲間の名前を覚えたり、会話ができるようになりました。

【写真3】 野外炊事(パン・シチュー)



野外炊事では、パンとシチューを作りました。普段は体験しない火起こしや、たき火での調理を行いましたが、全員で協力し、美味しい夕食を作ることができました。

【写真4】 ナイトハイク



夜は自然の家周辺の森を散歩しました。同じ場所でも昼とは違う景色や自然の音を聞き、参加者は盛り上がっている様子でした。

【写真5】たき火



1日一緒に活動した仲間と、たき火を囲みながら会話をしました。普段の生活や学校でどう過ごしているかなど、班に捉われずに積極的に交流している姿が印象的でした。

【写真6】ふりかえり



1日で頑張ったこと、楽しかったこと、嬉しかったことをしおりに記入し、班ごとに発表をしました。他の人の話を聞きながら、翌日自分はどんなことを頑張りたいかを考えるきっかけになりました。

【写真7】読み聞かせ



早寝、早起き、朝ごはんの意識付けのため、関連する絵本の読み聞かせを行いました。参加者全員がしっかりと聞いている姿が印象的で、その後は全員が早く寝て、翌日の活動に備えることができました。

【写真8】ウォークラリー



自然の家のウォークラリーコースを班ごとに回り、その後の工作の材料を集めました。途中にはロープがある急坂がありましたが、班内で声掛けをしながら、頑張って歩いている様子が見られました。

【写真9】クラフト活動



ウォークラリーで拾った枝などを使い、参加者それぞれの名札を作りました。他の参加者と会話をしてアイデアをもらいながら、オリジナルの作品を作りました。

【写真10】ふりかえり、閉会式



キャンプの最後に、2日間の出来事を振り返り、印象に残ったことを全員で開き合いました。あっという間に2日間が過ぎたが、とても楽しかったという声が多くありました。

6) 評価

① アンケート結果（事業全体に対する満足度）

満足	やや満足	やや不満	不満
91%	9%	0%	0%

② 参加者の声

- ・たくさん友達ができた。
- ・いつもはゲームばかりやっているけど、たまにはゲームをせず、自然の中で鬼ごっこやみんなでご飯を作って食べたり、山を登ったりするのもいいなと思った。
- ・協力、努力したり、他の人と一緒に頑張ると良いことがあると気付けた。

7) 成果と課題

① 成果

- ・県内の各母子会と連携を取り、広報活動を行ったことで、参加希望者の取りまとめを円滑に行うことができ、準備に時間を使うことができました。
- ・当初の申し込み締め切り日時点では参加希望者は4名と非常に少なかったものの、締切を延長したり、2日目の日帰り参加を可としたことで、12名まで応募を増やすことができました。
- ・各活動の時間をゆとりを持って設定したことで、参加者に対し必要以上に慌てさせることが無かった他、ナイトハイク等、予定には無かった活動を入れたことで満足度を上げることができました。
- ・参加者数に対して、ボランティア含めたスタッフを多く配置したことで、活動中の安全管理体制を万全なものにすることができました。

② 課題

- ・想定よりも応募者が少なく、追加募集を行いました。活動内容やチラシをより魅力的なものにしたり、協力をお願いする機関を増やすことで、応募者をより増やすことができるのではないかと考えます。
- ・スタッフの数が多く、安全管理体制には万全を期することができたものの、かえって参加者にはスタッフが多いことでの「見られている」というプレッシャーを与えてしまい、本来の姿が見られなかった可能性があります。応募人数を見て、班に2人までなど、適切な人数のスタッフ配置が必要だったように思えます。

4 グローバル人材の育成を見据えた国際交流事業
ウ 国内での国際交流事業(イングリッシュキャンプ等)


令和7年度 国立諫早青少年自然の家教育事業(諫早市教育委員会委託事業)
International Adventure Day ~Let's enjoy English!~

〔主催〕 国立諫早青少年自然の家
 〔期日〕 令和7年9月27日(土)
 〔活動場所〕 国立諫早青少年自然の家
 〔参加者〕 諫早市内の小学4年生 児童24名(男子10名、女子14名)
 〔担当職員〕 日高 由樹、高山 雄也
 〔外部講師等〕 諫早市教育委員会学校教育課職員(5名) 諫早市教育委員会ALT(8名)
 鎮西学院大学学生(5名) 法人ボランティア(5名)

1) 事業の趣旨

自然の中で英語を聞いたり、話したり、人に伝えたりする活動や外国人との交流を通して、英語でのコミュニケーションを図ることの楽しさを感じるにより、コミュニケーションを図る素地となる資質を育てます。

2) SDGs で目指す姿

	<p>目標4 質の高い教育をみんなに 自然体験活動や外国人との交流を通して英語を楽しく学びます。</p> <p>目標16 平和と公正をすべての人に 外国人や同世代の人たちと英語で交流することでお互いの理解を深めます。</p>
---	--

3) 目標

「Let's make many English memories!」

4) 研修プログラム

9月27日(土)	
10:00	受付
10:15	「開会式」
	「Let's get started!」 【写真①】
10:30	「Let's be friends!」 【写真②】
11:00	「Let's enjoy forest bingo game!」 【写真③】
12:00	昼食(レストラン)
13:00	「Let's play games!」 【写真④】
14:30	「Let's review today's activities!」 【写真⑤】
14:45	「閉会式」
15:00	終了

5) 事業展開

①「Let's get started !」【写真①】



一日活動を共にする、ALT→ボランティア→自然の家職員→市役所職員の順で自己紹介を行い、一緒に活動するメンバーを確認することができました。

②「Let's be friends !」【写真②】



全員が参加する英語を使ったゲームを行いました。たくさんの人と簡単な英語フレーズを使って話すことで、緊張がほぐれ、たくさんの笑顔が生まれました。ALTとも積極的に話す姿は印象的でした。

③「Let's enjoy forest bingo game!」【写真③】



森の中で、ビンゴゲームを行いました。4×4マスのビンゴシートを手に、森の中の様々な自然物を班ごとに探しました。班ごとに見つけたものの大きさや色、形が異なり、各班の個性が光る時間でした。ALTと一緒に、自然物を示す英単語を話しながら、真剣に自然物を探す姿はとても印象的でした。



④「Let's play games !」【写真④】



海外のレクリエーションを用いながら、簡単な英語フレーズを楽しく覚えました。「What time is it, Mr. Wolf?」はこの日一番の盛り上がりとなり、英語フレーズを楽しそうに使う姿が見られました。

⑤「Let's review today's activities !」【写真⑤】



最後は、みんなで振り返りをしたり、アンケートを記入したりしました。参加者のほとんどが本事業に参加して「とても楽しかった」「楽しかった」と笑顔で回答してくれました。

6) 評価

① アンケート結果（事業全体に対する満足度）

満足	やや満足	やや不満	不満
83%	17%	0%	0%

② 参加者の声

- ・森の中のゲームが楽しかった。
- ・英語で話すのは緊張したけど、ゲームでたくさん喋れた。
- ・ALTの先生やボランティアリーダーとゲームができて楽しかった。

③ ALT・ボランティアの声

- ・参加者が楽しそうにゲームに参加し、英語を積極的に話そうとする姿は印象的だった。
- ・参加者一人ひとりと関わる時間がたくさん取れてよかった。
- ・最初は緊張していた参加者も、最後はみんな笑顔で取り組めていたので良かった。

7) 成果と課題

① 成果

- ・昨年度よりフォレストビンゴの時間を短くしましたが、参加者がゲームに集中して取り組むことができ、ちょうどよい時間配分となりました。
- ・単語の練習やフレーズ練習を少なくし、時間をゲームに割いたことで、楽しみながらフレーズを覚えることができました。
- ・スタッフの人数が参加者数に迫る人数だったため、参加者一人一人がALTやボランティアとたくさん関わることができ、英語のサポートや参加者の体調、安全を十分に確認しながら事業を進めることができました。
- ・最初はなかなかグループになじむことができなかった参加者も、ボランティアの支援を中心に手厚く支援を行えたことで、最後は全員で楽しく活動を行うことができました。

② 課題

- ・ALTとボランティアの間でゲームのルール認識がずれている場面があり、紙ベースの簡単な説明だけでなく実際に活動してみたり、活動している様子を動画などで共有したりなどの工夫が必要でした。
- ・ゲーム中にプレイホールを走り回ることがあり、すべりやすいプレイホールのため、人にぶつかったり、転んだりする参加者が見られました。安全上の観点から、体育館シューズの持参をお願いする必要性がありました。
- ・本年度は45名定員でしたが、24名の参加となりました。結果的に、参加者が少ないことで、一人一人に手厚い支援を行うことができましたが、より多くの方にこの事業を知ってもらえるような広報の工夫が必要でした。

- 5 青少年教育指導者等の養成及び資質向上に関する事業
 ア 青少年教育指導者等の養成・研修事業
 a 自然体験活動指導者（NEAL）養成事業

令和7年度 国立諫早青少年自然の家 教育事業
 自然体験活動指導者（NEALリーダー）養成事業

〔主催〕 国立諫早青少年自然の家

〔期日〕 令和7年11月1日（土）～3日（月・祝） 2泊3日

〔活動場所〕 国立諫早青少年自然の家



〔参加者〕 年度末年齢16歳以上（高校生以上）の方 8名（社会人6名、学生2名）

〔担当職員〕 高山 雄也、中里 文彦、戸越 信吾

1) 事業の趣旨

自然体験活動指導者認定制度のもと、自然体験活動指導者（NEALリーダー）の資格取得に必要な講習会（概論Ⅰ）を開催し、専門的な知識と技術をもって自然体験活動の普及や振興に貢献する指導者を養成します。

2) SDGsで目指す姿

		<p>目標4 質の高い教育をみんなに 質の高い自然体験活動を提供できる指導者を養成します。 目標17 パートナーシップで目標を達成しよう 参加者同士の交流を深めながら、お互いに切磋琢磨できる関係性を築きます。</p>
---	---	---

3) 研修プログラム

1日目 11月1日(土)	2日目 11月2日(日)	3日目 11月3日(月・祝)
10:15 開会式 10:30 ガイダンス 11:00 講義・実習 【写真1】 「自然体験活動の技術Ⅰ」 （テント設営） 12:00 昼食(持参弁当) 13:00 講義・実習 【写真2】 「自然体験活動の技術Ⅱ」 （オリエンテーリング） 15:00 講義・実習 【写真3】 （野外炊事、ナンカレー） ※夕食含む 19:00 入浴、休憩 21:30 就寝 （テント泊）	6:30 起床、朝のつどい 朝食(レストラン) 8:30 テント撤収 9:00 講義・実習 【写真4】 「青少年教育における体験活動」 10:30 講義・実習 【写真5】 「対象者理解」 12:00 昼食（レストラン） 13:00 講義・演習 【写真6】 「自然体験活動の特質」 16:00 講義・演習 【写真7】 「自然体験活動の指導Ⅰ」 17:00 タベのつどい 夕食(レストラン) 18:30 講義・演習 「自然体験活動の指導Ⅱ」 19:00 入浴、休憩 20:00 情報交換会 21:30 就寝	6:30 起床、朝のつどい 朝食(レストラン) 8:45 宿泊室点検 9:00 講義・演習 【写真8】 「自然体験活動の安全管理」 12:00 昼食（レストラン） 13:00 ガイダンス 13:30 修了試験 14:10 閉会式

4) 事業展開

① 体験活動の技術Ⅰ【写真1】



テント泊のため、テントを設営しました。どこに張るのが良いかを考えながら、協力してテントを張りました。

② 体験活動の技術Ⅱ【写真2】



夕食作りに向けて、食材ゲットオリエンテーリングを体験しました。受講者は真剣に食材カードを探していました。

③ 自然体験活動の技術Ⅲ【写真3】



野外炊事でナンカレーを作る体験をしました。各自に与えられた役割を果たしながら、協力して夕食を作りました。

④ 青少年における体験活動【写真4】



青少年教育の現状や課題等について、資料やデータを読み込み、意見交換をしながら学びを深めました。

⑤ 対象者理解【写真5】



体験活動の指導者として必要な対象者理解について、ワークや話し合いを交えながら講義を行いました。対象者理解は事前だけでなくキャンプ当日も続くことを学びました。

⑥ 自然体験活動の特質【写真6】



屋外での活動を入れながら、講義を進めました。過去の事業の例を出し、自然の中でどのように青少年と関わったら良いかを学びました。

⑦ 自然体験活動の指導【写真7】



実際に指導にあたる際の留意点などを、イニシアティブゲームに参加し、実践形式で学ぶことができました。

⑧ 自然体験活動の安全管理【写真8】



自然体験活動中におけるリスクについての講義を行った後、心肺蘇生法をよくある場面をシミュレーションしながら学びました。

5) 評価

① アンケート結果（事業全体に対する満足度）

満足	やや満足	やや不満	不満
75%	25%	0%	0%

② 参加者の声

- ・ 様々な立場の人が集まったの研修会で、新たな視点をたくさん得ることができた。
- ・ 参加者それぞれの願いや思いに合わせた内容と活動で、実り多い2泊3日だった。
- ・ 指導者（スタッフ）の体験談をもっと聞きたかった。
- ・ 書籍など、各自で知見を広められるような紹介があっても良いと思った。

6) 成果と課題

① 成果

- ・ 意見交換の時間を多めに取り入れ、参加者同士の交流を深められたことで、カリキュラム内容以外の学びも多く、満足度は高かった。
- ・ 諫早自然の家と関わりのある講師に依頼をしたことで、事例紹介が細かく行われた。
- ・ 講義内で時間に余裕があった際は、追加で情報を提供することもでき、参加者の学びをより充実させることができた。
- ・ 少人数での開催だったからこそ、交流の時間や意見交換が活発だった。

② 課題

- ・ 参加者が普段から子どもの指導にあたっている方が多かったため、普段の指導方法などを共有できる場を講義内で取り入れるべきだった。
- ・ 技術のコマでは危険な場面も少しあり、声掛けを行なう行動やタイミングの基準を設けておくと良かった。
- ・ 夜の時間に余裕があったため、カリキュラム以外の活動を取り入れてもよかったように思う。
- ・ 今回は学校や関係機関を中心に広報を行ったが、申し込みを増やすためには新たな広報先の開拓が必要だった。

10 青少年教育指導者等の養成及び資質の向上に関する事業
 ウ ボランティアの養成・研修事業
 a ボランティアの養成事業

自然体験活動ボランティア養成研修

〔主催〕 国立諫早青少年自然の家

〔期日〕 令和7年6月14日（土）～15日（日） 1泊2日

〔活動場所〕 国立諫早青少年自然の家

〔参加者〕 高校生以上の方17名（大学生12名・高校生2名・社会人3名）

〔担当職員〕 日高 由樹、吉田 流風、高山 雄也

1) 事業の趣旨

青少年の体験活動事業で活動するボランティアスタッフに求められる基礎的な知識・技術を習得するとともに、ボランティア活動への参加意欲を高めます。

2) SDGsとの関わり



目標4 質の高い教育をみんなに

ボランティアの意義を理解し、多くの子供と接するきっかけを作ります。



目標16 平和と公正をすべての人に

先輩ボランティアの意思を引継ぎ、自主的に活動を選択することができるようにします。

3) 目標

- ①自然の家のボランティア活動を「楽しそう」と感じてもらう。
- ②「自然の家にまた来て子供たちと一緒に活動したい」と感じてもらうこと。
- ③参加者同士の支持的風土を醸成する。

4) 研修プログラム

1日目 (6/14)	2日目 (6/15)
9:30 受付	6:30 起床
10:00 開講式	7:15 朝のつどい
10:30 【講義】活動時の心構えについて (ボランティア活動の意義 90分) 【写真①】	7:30 朝食
12:00 昼食	8:45 【説明】施設利用はどうするの？ (青少年教育施設におけるボランティア活動② 30分)【写真⑤】
13:00 【講義】なんで自然体験が大事ななの？ (青少年教育 90分) 【写真②】	9:30 【説明】どうやったら活動に参加できるの？ (青少年教育施設におけるボランティア活動③ 30分)
14:30 【講義・実習】野外調理にチャレンジ！ 夕食兼(ボランティア活動の技術 180分) 【写真③】	10:00 【講義】諫早自然の家ってなに？ 【写真⑥】 (青少年教育施設の現状と運営 60分)
18:00 【説明】どんなボランティア活動ができるの？ (青少年教育施設におけるボランティア活動① 60分) 【写真⑤】	11:00 昼食
19:00 【講義・実習】ワクワクキャンドルのつどい！ (ボランティア活動の技術 90分) 【写真④】	13:00 【講義・実習】応急手当を知ろう 【写真⑦】 (※普通救命講習Ⅰ 安全管理 180分)
20:30 入浴・就寝準備・就寝	16:00 アンケート記入・閉講式・会場片付け
	16:30 解散

5) 事業展開

①【講義】 ボランティア活動の意義



イニシアティブゲームを実際に体験しながら、参加者マインドを学びつつ、他者とのかかわり方について学びました。実際に自分の緊張がほぐれる体験を通して、ボランティアの存在意義を知りました。

②【講義】 青少年教育



青少年教育の歴史についての講義やペーパータワー作りを通して、青少年教育の意義を学びました。タワーを作りながら、多様な考えを1つにまとめ実際に形にしてみる体験をしました。

③【講義・実習】 ボランティア活動の技術



野外活動の技術習得の一つとして、野外炊事を行いました。薪割りや火付けの際の安全管理、指導法を学びました。

④【講義・実習】 ボランティア活動の技術



活動の技術習得の一つとして、キャンドルのつどいを行いました。様々なレクリエーションを行い、共に盛り上がる楽しさを体験しました。

⑤【説明】 青少年教育施設におけるボランティア活動①



ボランティア活動について先輩ボランティア3名から講義を受けました。3人の具体的な体験談を聞き、法人ボランティアのイメージを掴むことができました。

⑥【講義】 青少年教育施設の現状と運営



これまでの講義で学んできたことをもとに、自分がなりたいボランティア像について考えました。様々なボランティア観に触れ、ボランティアのイメージ像がより明確化になりました。

⑦【講義・実習】普通救命講習Ⅰ 安全管理



諫早消防署の指導の下、普通救命講習Ⅰの講義を受け、AEDとレサシアン人形を用いた実習を行いました。また、基本的な怪我の対処法についても学びました。

6) 評価

① アンケート結果（事業全体に対する満足度）

満足	やや満足	やや不満	不満
100%	0%	0%	0%

② 参加者の声

- ・ボランティアについて様々なことを学べたし、新しく友達もでき楽しみながら研修を行うことができてよかった。
- ・ボランティアの心構えと心掛けることを知れたことがよかった。
- ・ボランティアがどういうものなのかや野外調理などの実践的な活動に参加できた。

7) 成果と課題

① 成果

- ・アンケート評価は高く、参加者の声としても「ボランティアで大切にすべきことが分かった」「積極性や自分から挑戦することが大切だと知れた」など、ボランティア活動について意欲的に学んだようであり、今後の教育事業などでの活躍が期待されます。
- ・実習や講義中のイニシアティブゲームなどで他の参加者や先輩ボランティアと関わり、ボランティア同士の横のつながりを作ることができました。

② 課題

- ・今回、テスト期間などの影響もあり、大学生の参加者がすべて長崎純心大学からの参加であった。来年度は開催時期を見直しつつ、他事業などで当所にかかわりのある大学関係者にも協力を依頼し、より効果的な広報活動を展開したいと思います。
- ・実習を野外炊事中心に組んだが、天候に左右されることが多く毎年の課題となっている。今一度、当事業で野外炊事を実習として行うことの意義を再検討し、他の活動への変更も含めて検討したいと思います。

5 青少年教育指導者等の養成及び資質の向上に関する事業
 ウ ボランティア養成・研修事業
 c ボランティアによる自主企画事業

令和7年度 大学生のためのボランティア活動推進事業
 自主企画事業支援プロジェクト

〔主催〕 国立諫早青少年自然の家

〔期日〕 令和7年12月6日（土）～7日（日） 1泊2日

〔活動場所〕 国立諫早青少年自然の家




〔参加者〕 小学4～6年生 34名

〔担当職員〕 高山 雄也、中里 文彦、吉田 流風、日高 由樹

1) 事業の趣旨

小学4～6年生を対象に、オリエンテーリングやクラフトなどの自然体験活動を通して、仲間とコミュニケーションを図りながらミッションに挑戦する力や、自分の考えを伝える力を育むことを目指します。

2) SDGs で目指す姿

 <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	 <p>15 陸の豊かさも守ろう</p>	<p>目標4 質の高い教育をみんなに 様々な自然体験活動を通し、自ら考える力を養います。</p> <p>目標15 陸の豊かさも守ろう 自然と触れ合う活動を通して、自然の大切さを感じる機会とします。</p> <p>目標17 パートナーシップで目標を達成しよう 仲間と困難に立ち向かい、声を掛け合いながら、達成する喜びを味わいます。</p>
 <p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p>		

3) 研修プログラム

1日目 12月6日（土）	2日目 12月7日（日）
9：30 受付 10：00 開会式 10：15 仲良くなろう 【写真1】 （アイスブレイク） 10：35 安全指導、オリエンテーリング説明 11：00 オリエンテーリング 【写真2】 ～昼食（持参弁当）～ 14：00 野外炊事（ナンカレー） 【写真3・写真4】 19：00 星空観察 19：40 ふりかえり 20：00 入浴・就寝準備 21：30 就寝	6：30 起床 7：15 朝のつどい 7：30 朝食 8：00 清掃・片付け・活動準備 8：45 退所点検 9：10 クラフト活動（フォトフレーム） 【写真5】 11：20 ふりかえり 11：50 閉会式 12：00 解散

4) 事業展開

① アイスブレイク【写真1】



「せーのであつまれ」や「言うことやること」などいくつかのアイスブレイクで仲を深めました。最初は参加者もボランティアも緊張していましたが、アイスブレイク後はたくさんの笑顔が見受けられました。

② オリエンテーリング【写真2】



タラッキー探検隊として、オリエンテーリングを行いました。班で協力して謎解きや写真探しなどのゲームをクリアして、野外炊事の食材をゲットしました。

③ 野外炊事 安全指導【写真3】



野外炊事の安全指導では、ボランティアが説明しながら、お手本として事業に複数回参加している参加者に薪割りをしてもらいました。

④ 野外炊事【写真4】



オリエンテーリングでゲットした食材で、ナンカレーを作りました。薪割りや火起こしをしたり、食材を切ったり、班で役割分担しながら協力して美味しいナンカレーを作りました。

⑤ クラフト活動【写真5】



どんぐりや落ち葉で、オリジナルのフォトフレームを作りました。2日間の思い出を振り返りながら作成し、完成後は班で写真を撮り、フォトフレームに写真を入れ、形として思い出を残しました。

5) 評価

アンケート結果

事業全体に対する満足度

とても楽しかった	楽しかった	あまり楽しくなかった	楽しくなかった
88%	12%	0%	0%

6) 成果と課題

① 成果

- ・ボランティア各々が考えた活動を1泊2日ですることができ、参加者はもちろん、ボランティアとしても充実した自主企画でした。
- ・オリエンテーリングは食材探しで野外炊事につながる工夫があったため、参加者が飽きずに楽しめていた様子でした。
- ・活動ごとの安全指導は、事前踏査や前泊での他のボランティアや職員の助言を活かして行うことができました。
- ・それぞれの活動にオリジナルが組み込まれていたことによって、参加者だけでなく、ボランティアも一緒に楽しむことができ、参加者の目線に立つことができました。
- ・全体的に時間の余裕があり、細かな点にも目を向けることができました。

② 課題

- ・野外炊事やクラフト活動で時間的に余裕があったため、その時間は何をするか、先を見すえて考える必要がありました。
- ・1日目はボランティアが介入する場面が多く見受けられ、どこまで援助するか、どういった声かけが必要か、状況に合わせて対応できる力が必要でした。
- ・参加者が話をする人にすぐ注目できるように合図の工夫をしたが、2日間で数回しか実践しなかったため、意識してどの活動でも取り入れるよう、共有をするべきでした。
- ・野外炊事の片付けが予想以上に時間がかかったため、参加者がメリハリをつけられるような声掛けの工夫が必要でした。

II 事業・管理運営の記録

1. 令和7年度利用実績

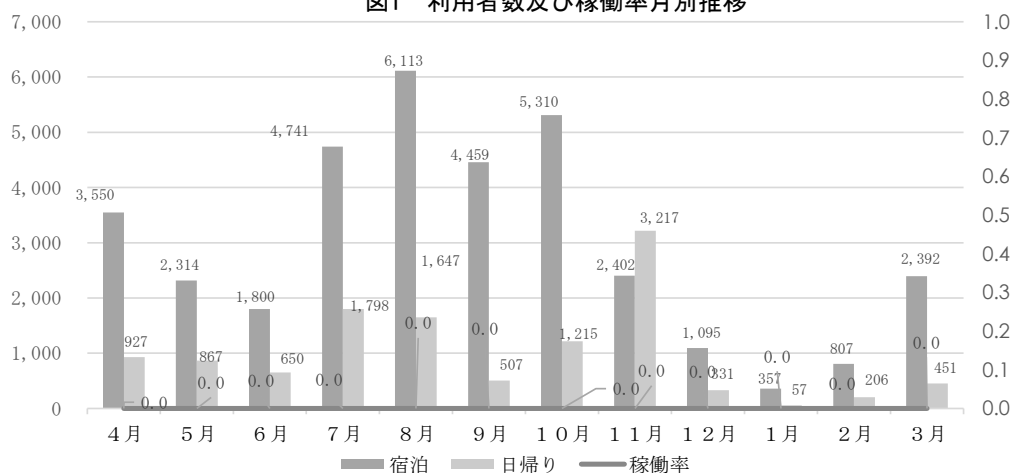
※令和7年度は1月、2月は長期休館を設定とした。

(1) 利用者数・利用団体数・稼働率

① 利用者数及び稼働率

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
研修支援	宿泊	3,392	2,314	1,766	4,665	6,113	4,408	5,138	2,378	1,015	357	807	2,392	34,745
	日帰	927	867	650	1,798	1,647	483	1,215	2,398	329	57	206	451	11,028
	計	4,319	3,181	2,416	6,463	7,760	4,891	6,353	4,776	1,344	414	1,013	2,843	45,773
教育事業	宿泊	158	0	34	76	0	51	172	24	80	0	0	0	595
	日帰	0	0	0	0	0	24	0	819	2	0	0	0	845
	計	158	0	34	76	0	75	172	843	82	0	0	0	1,440
総合計	宿泊	3,550	2,314	1,800	4,741	6,113	4,459	5,310	2,402	1,095	357	807	2,392	35,340
	日帰	927	867	650	1,798	1,647	507	1,215	3,217	331	57	206	451	11,873
	計	4,477	3,181	2,450	6,539	7,760	4,966	6,525	5,619	1,426	414	1,013	2,843	47,213
稼働率(%)		21.6%	18.1%	16%	26.9%	35.9%	30.2%	26.7%	16.2%	12.2%	22.9%	22.4%	19.6%	23.1%

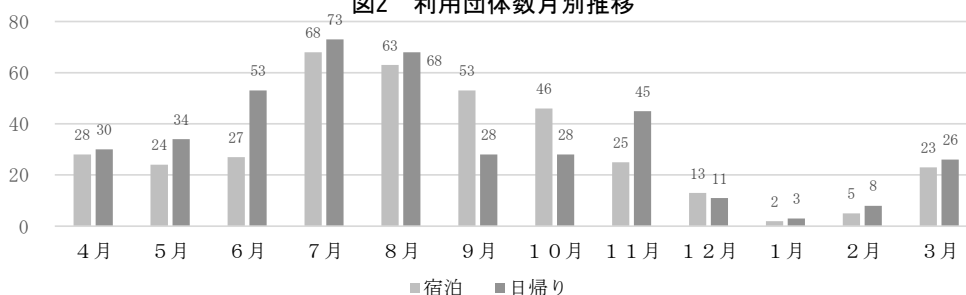
図1 利用者数及び稼働率月別推移



② 利用団体数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
研修支援	宿泊	27	24	26	67	63	52	45	24	11	2	5	23	369
	日帰	30	34	53	73	68	27	28	44	11	3	8	26	405
	計	57	58	79	140	131	79	73	68	22	5	13	49	774
教育事業	宿泊	1	0	1	1	0	1	1	1	2	0	0	0	8
	日帰	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2
	計	1	0	1	1	0	2	1	2	2	0	0	0	10
総合計	宿泊	28	24	27	68	63	53	46	25	13	2	5	23	377
	日帰	30	34	53	73	68	28	28	45	11	3	8	26	407
	計	58	58	80	141	131	81	74	70	24	5	13	49	784

図2 利用団体数月別推移

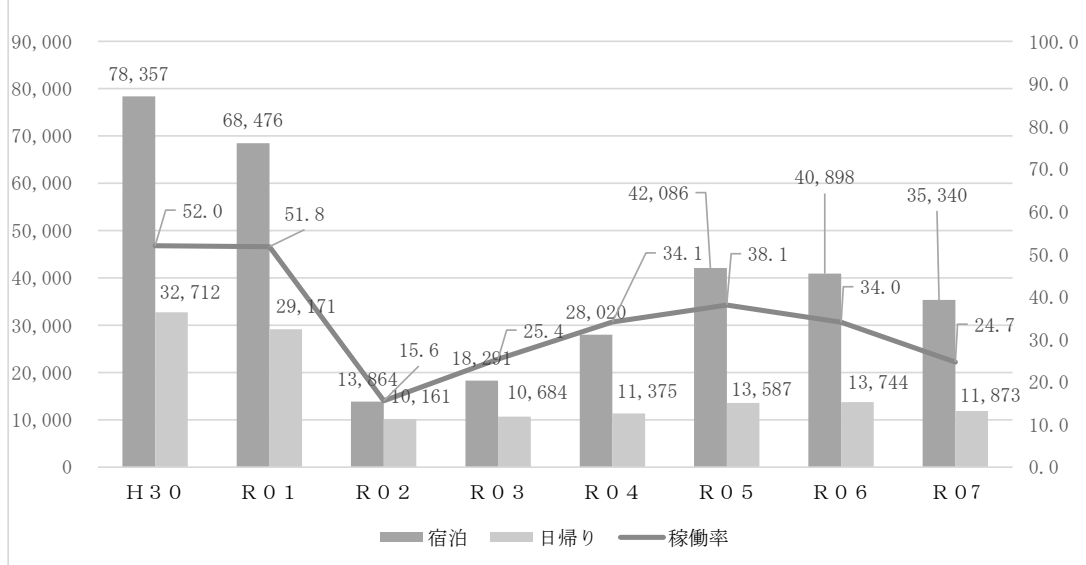


(2) 平成30年度から令和7年度までの利用者数・利用団体数・稼働率

① 利用者数及び稼働率

		H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07
研修支援	宿泊	71,904	63,303	12,385	17,367	27,255	41,155	40,126	34,745
	日帰	13,522	13,020	8,526	9,446	10,741	12,111	12,867	11,028
	計	85,426	76,323	20,911	26,813	37,996	53,266	52,993	45,773
教育事業	宿泊	6,453	5,173	1,479	924	765	931	772	595
	日帰	19,190	16,151	1,635	1,238	634	1,476	877	845
	計	25,643	21,324	3,114	2,162	1,399	2,407	1,649	1,440
総合計	宿泊	78,357	68,476	13,864	18,291	28,020	42,086	40,898	35,340
	日帰	32,712	29,171	10,161	10,684	11,375	13,587	13,744	11,873
	計	111,069	97,647	24,025	28,975	39,395	55,673	54,642	47,213
稼働率(%)		52.0	51.8	15.6	25.4	34.1	38.1	34.0	24.7

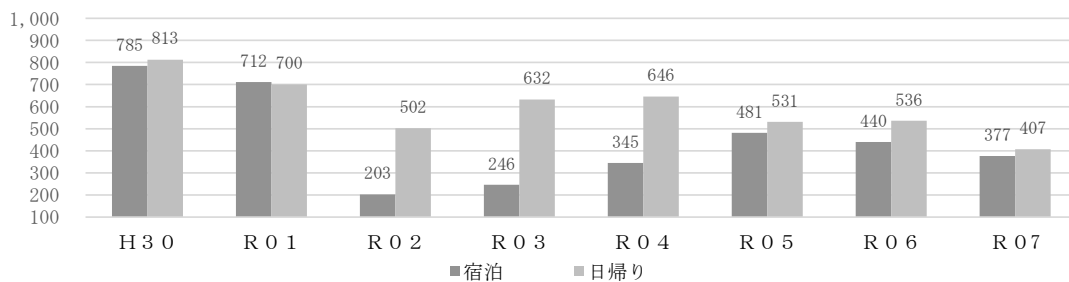
図3 利用者数及び稼働率経年比較



② 利用団体数

		H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07
研修支援	宿泊	708	656	192	229	332	467	432	369
	日帰	732	633	468	600	631	521	530	405
	計	1,440	1,289	660	829	963	988	962	774
教育事業	宿泊	77	56	11	17	13	14	8	8
	日帰	81	67	34	32	15	10	6	2
	計	158	123	45	49	28	24	14	10
総合計	宿泊	785	712	203	246	345	481	440	377
	日帰	813	700	502	632	646	531	536	407
	計	1,598	1,412	705	878	991	1,012	976	784

図4 利用団体数経年比較



(3) 団体種別利用状況

団体種別	利用者数		利用団体数	
	数(人)	割合(%)	数(団体)	割合(%)
幼稚園・保育園・こども園	2,528	5.4	57	7.3
小学校	10,364	22.0	149	19.0
中学校	2,590	5.5	33	4.2
高等学校	2,810	6.0	21	2.7
特別支援学校	234	0.5	7	0.9
大学・短大	550	1.2	5	0.6
その他の学校	420	0.9	6	0.8
青少年活動関係団体等	12,338	26.1	171	21.8
教育事業など	4,743	10.0	54	6.9
官公庁・企業	1,421	3.0	52	6.6
家族	131	0.3	39	5.0
その他	9,084	19.2	192	24.4
合計	47,213	100	786	100

- ・「その他の学校」とは、専修学校・専門学校、職業訓練校等の団体を区分しています。
- ・「その他」とは、上記以外の「教育関係施設」, 「グループ・サークル」等の団体を区分しています。

図5 団体種別利用者数の割合

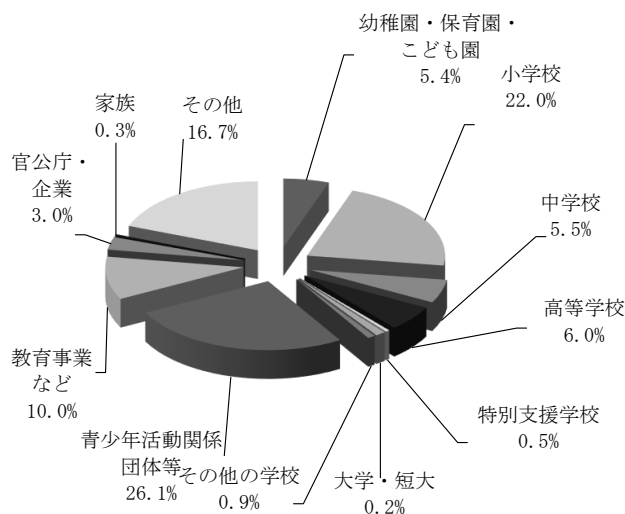
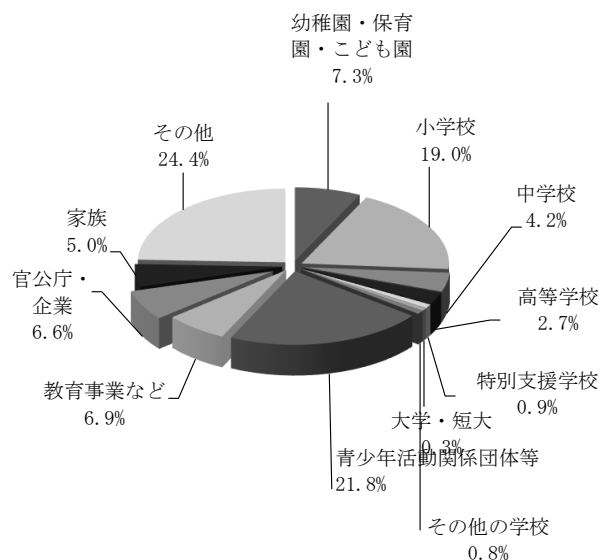


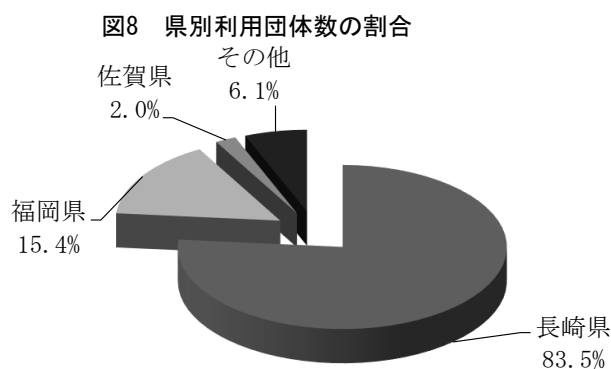
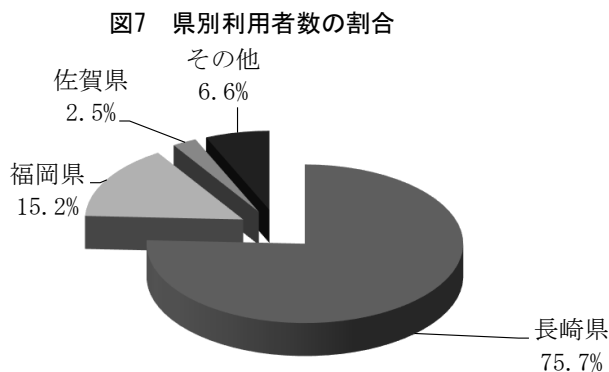
図6 団体種別利用団体数の割合



(4) 県別利用状況

都道府県	利用者数		利用団体数	
	数(人)	割合(%)	数(団体)	割合(%)
長崎県	31,692	75.7	412	76.4
福岡県	6,374	15.2	83	15.4
佐賀県	1,046	2.5	11	2.0
その他	2,746	6.6	33	6.1
合計	41,858	100	539	100

- ・当所主催の教育事業を除いています。
- ・各団体が「下見・事前打合せ」で利用した場合を除いています。



(5) 県ごとの団体種別利用実績

		幼・保 こども園	小学校	中学校	高等学校	特別支援 学校	大学・ 短大	その 他の 学校	青少年 活動団体	官公庁 企業	家族	その他	合計
長崎県	利用団体数(団体)	34	58	15	11	5	4	4	103	18	37	123	412
	利用者数(人)	2,280	7,730	2,006	1,835	229	426	414	8,683	660	127	7,302	31,692
福岡県	利用団体数(団体)	2	24	1	2	0	1	0	11	26	1	15	83
	利用者数(人)	179	2,306	119	646	0	124	0	1,336	691	2	971	6,374
佐賀県	利用団体数(団体)	0	2	1	1	0	0	0	5	0	0	2	11
	利用者数(人)	0	116	159	295	0	0	0	421	0	0	55	1,046
その他	利用団体数(団体)	0	0	1	0	0	0	0	17	1	0	14	33
	利用者数(人)	0	0	260	0	0	0	0	1,792	55	0	639	2,746
合計	利用団体数(団体)	36	84	18	14	5	5	4	136	45	38	154	539
	利用者数(人)	2,459	10,152	2,544	2,776	229	550	414	12,232	1,406	129	8,967	41,858

- ・当所主催の教育事業を除いています。
- ・「学校」が、授業外(勉強合宿・部活・クラスレクリエーション)で利用した場合は、「青少年活動団体」に区分しています。
- ・各団体が「下見・事前打合せ」で利用した場合を除いています。

(6) 長崎県内市町ごとの利用状況

市町名	利用者数		利用団体数	
	数(人)	割合(%)	数(団体)	割合(%)
諫早市	12,587	39.7	177	43.0
長崎市	8,079	25.5	92	22.3
大村市	5,773	18.2	60	14.6
雲仙市	315	1.0	6	1.5
島原市	820	2.6	10	2.4
南島原市	235	0.7	7	1.7
佐世保市	294	0.9	9	2.2
時津町	1,536	4.8	11	2.7
長与町	1,139	3.6	12	2.9
その他	914	2.9	28	6.8
合計	31,692	100	412	100

- ・当所主催の教育事業を除いています。
- ・各団体が「下見・事前打合せ」で利用した場合を除いています。

図9 長崎県内市町ごとの利用者数の割合

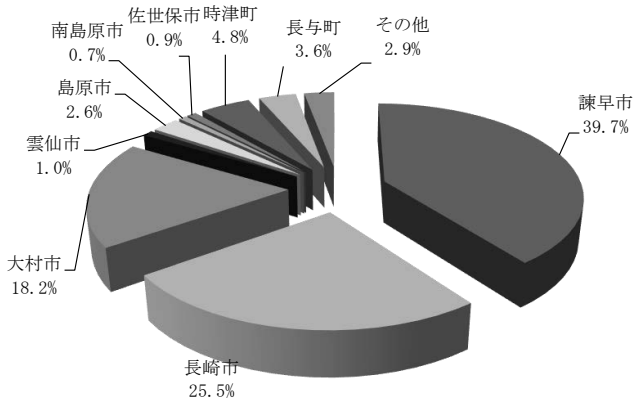
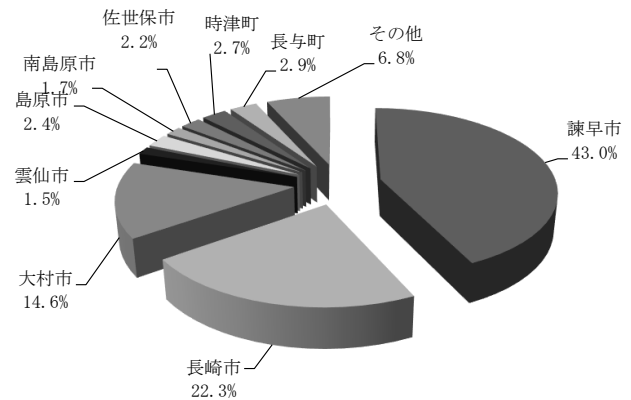


図10 長崎県内市町ごとの利用団体数の割合



(7) 長崎県内市町ごとの団体種別利用実績

市名	団体種別	幼・保 子ども園	小学校	中学校	高等学校	特別支援 学校	大学・ 短大	その 他の 学校	青少年 活動団体	官公庁 企業	家族	その他	合計
諫早市	利用団体数(団体)	5	23	11	3	0	0	2	47	3	24	54	172
	利用者数(人)	198	2,648	1,156	867	0	0	121	3,778	272	74	3,413	12,527
長崎市	利用団体数(団体)	20	6	2	4	1	2	1	26	0	6	22	90
	利用者数(人)	1,480	753	189	711	70	346	133	3,243	0	28	983	7,936
大村市	利用団体数(団体)	3	12	0	0	4	2	0	10	1	2	25	59
	利用者数(人)	276	2,242	0	0	159	80	0	706	67	7	2,143	5,680
雲仙市	利用団体数(団体)	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	6
	利用者数(人)	98	0	0	0	0	0	0	178	0	0	39	315
島原市	利用団体数(団体)	1	6	1	1	0	0	1	3	0	1	4	18
	利用者数(人)	77	442	72	90	0	0	160	168	0	2	110	1,121
南島原市	利用団体数(団体)	0	1	0	0	0	0	0	2	0	1	4	8
	利用者数(人)	0	66	0	0	0	0	0	123	0	2	110	301
佐世保市	利用団体数(団体)	1	0	0	1	0	0	0	4	0	2	1	9
	利用者数(人)	48	0	0	10	0	0	0	171	0	9	56	294
時津町	利用団体数(団体)	0	4	1	1	0	0	0	1	1	1	2	11
	利用者数(人)	0	653	589	82	0	0	0	44	7	4	157	1,536
長与町	利用団体数(団体)	0	5	0	0	0	0	0	2	0	1	4	12
	利用者数(人)	0	876	0	0	0	0	0	99	0	3	161	1,139
その他	利用団体数(団体)	1	1	0	1	0	0	0	7	0	1	5	16
	利用者数(人)	103	50	0	75	0	0	0	173	0	2	130	533
合計	利用団体数(団体)	34	58	15	11	5	4	4	103	5	39	123	401
	利用者数(人)	2,280	7,730	2,006	1,835	229	426	414	8,683	346	131	7,302	31,382

- ・当所主催の教育事業を除いています。
- ・「学校」が、授業外(勉強会・部活・クラスレクリエーション)で利用した場合は、「青少年活動団体」に区分しています。
- ・各団体が「下見・事前打合せ」で利用した場合を除いています。

(8) 宿泊日数別利用状況

宿泊日数	利用者数		利用団体数	
	数(人)	割合(%)	数(団体)	割合(%)
日帰り	9,073	35.1	212	36.4
1泊2日	13,889	53.7	308	52.8
2泊3日	1,801	7.0	44	7.5
3泊4日	650	2.5	11	1.0
4泊5日	383	1.5	7	1.2
5泊以上	72	0.3	1	0.2
合計	25,868	100	583	99

・利用者数は、実利用者数を用いて算出しています。
 ・当所主催の教育事業を除いています。

図11 宿泊日数別利用者数の割合

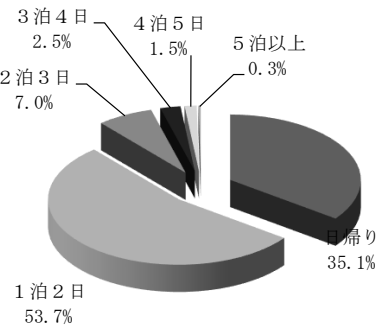
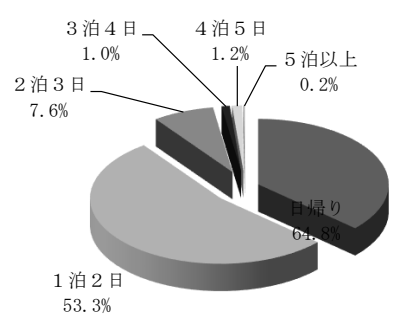


図12 宿泊日数別団体数の割合

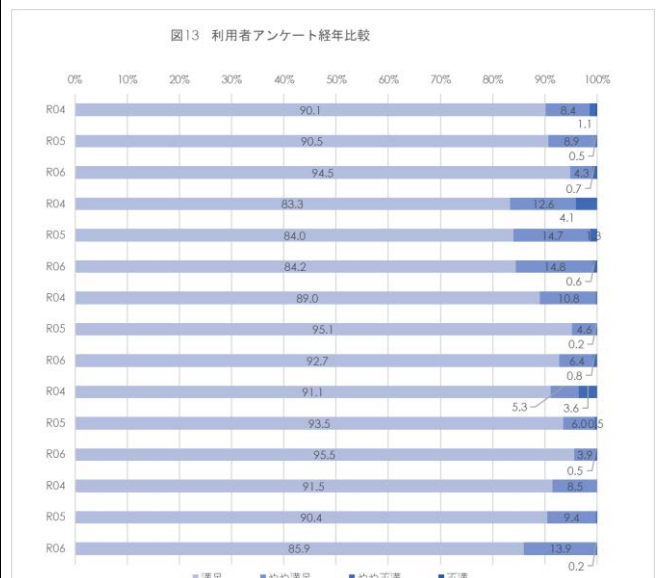


(9) 利用者アンケート

(%)

		満足	やや満足	やや不満	不満
①事前の情報提供に関する満足度	R05	90.5	8.9	0.5	0.0
	R06	94.5	4.3	0.7	0.2
	R07	92.6	6.1	1.2	0.0
②職員等の教育的支援に関する満足度	R05	84.0	14.7	1.3	0.0
	R06	84.2	14.8	0.6	0.2
	R07	86.7	12.9	0.4	0.0
③活動プログラムに関する満足度	R05	95.1	4.6	0.2	0.0
	R06	92.7	6.4	0.8	0.0
	R07	90.2	9.3	0.6	0.0
④職員の対応に関する満足度	R05	93.5	6.0	0.5	0.0
	R06	95.5	3.9	0.5	0.0
	R07	93.8	5.9	0.3	0.0
⑤施設を利用したの総合的な満足度	R05	90.4	9.4	0.2	0.0
	R06	85.9	13.9	0.2	0.0
	R07	83.9	15.5	0.6	0.0

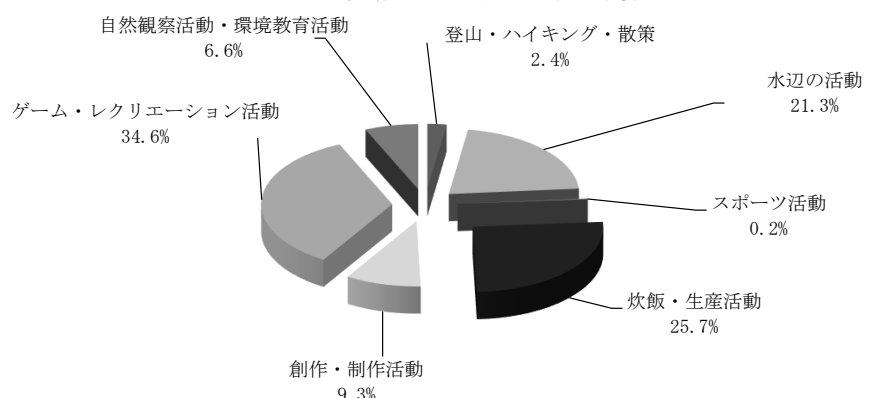
図13 利用者アンケート経年比較



(10) 活動プログラム別利用状況

活動プログラム	利用件数	割合(%)
登山・ハイキング・散策	14	2.4
水辺の活動	126	21.3
スポーツ活動	1	0.2
炊飯・生産活動	152	25.7
創作・制作活動	55	9.3
ゲーム・レクリエーション活動	205	34.6
自然観察活動・環境教育活動	39	6.6
合計	592	100

図14 活動プログラム別利用割合



Ⅲ. 管理運営状況について

教員の働き方改革による宿泊型利用の中止や、少子化による1団体あたりの人数の減少、自治体の方針変更等により、「令和」に入り機構全体の利用者は減少し、当所を含めた機構の事業収入は落ち込むこととなりました。

国から措置される「運営費交付金」は毎年削減されているため、財源の確保として自己収入の比重を高めることが急務となっています。

そこで令和6年度からの施設使用料の改定及び施設規模の適正化（宿泊定員の見直しや、使用頻度の低い宿泊棟の受入休止）の継続とともに、令和7年度から活動場所への使用料の設定を行い、財政の健全化を進めました。

令和6年度の施設使用料の改定・令和7年度の活動場所の使用料設定と、2年連続の値上げとなってしまい、利用者への負担増加が続きました。

「ただ値上げされただけ」と不満を感じられることがないように、これらの使用料で得た収入と合わせて、支出の削減、外部資金の獲得を行い、設備・機器・用具の修繕や更新を行い、利用者の方々へ「安全・安心な環境」「充実した研修設備」の提供という形で還元できるよう努めました。

（1）支出削減に向けた取り組み

○清掃業務の内製化

業務委託を行っていた清掃業務の契約を終了し、清掃業務担当非常勤職員2名の採用を行い、清掃業務を内製化し経費削減に努めました。

業務委託では仕様書で決められた定型的な清掃内容・回数・場所の清掃を行っていましたが、内製化したことで、利用状況等にあわせて柔軟に清掃を行うことができるため、清掃場所の日々の選定、清掃内容・回数の選択と集中が行え、経費の削減だけでなく、環境美化にも大きく寄与できました。

また、令和8年度にはロボット掃除機の導入を予定しており、ロビーや廊下の単純清掃はロボットに任せ、職員は今までマンパワーの問題で手が届かなかった細かい部分の清掃や、時間がかかる研磨清掃等を行い、更なる環境美化を目指します。

（2）収入増加への取り組み

○民間企業との業務提携

令和5年度から引き続き、（公財）九電みらい財団と「いさはや九電みらいの森」における環境教育に関する委託業務を締結しました。

令和7年度は近隣にある「いさはや九電みらいの森」や自然の家のフィールドを活用し、県内外の子供たちに環境保全意識の啓発を目的とした環境教育や広報活動、指導者研修を実施し、受託料収入を得ることができました。

令和8年度以降も実施する予定から、継続的な収入が見込まれます。



(3) 老朽化設備・用具の更新

○第6水源地深井戸水中ポンプの交換

本施設で使用される水は全て第6水源地の井戸水にて賄われています（第1水源地は機器の故障により休止中、第2～5水源地は沢の表流水等を使用していたため廃止）。

井戸水を汲み上げるポンプは前回の更新から11年が経過し、一般的な耐用年数を超えはじめたためか、令和6年度から軽微な不具合と修理を繰り返していました。

本ポンプの停止は、施設内の飲用水・生活水の供給停止を意味し、施設機能の停止に直結するため、予防保全の観点から水中ポンプの交換を行いました。



○本館宿泊棟外階段の補修

宿泊者の避難経路になっている本館宿泊棟の外階段は、経年劣化で防水機能が低下し、雨水の内部侵食によりコンクリートの爆裂と内部材の流失が発生していました。

このままでは地震等の緊急時に避難経路として使用できない可能性が見込まれたため、補修工事を行いました。



○本館宿泊室の畳表替え

長年使用している宿泊室の畳が劣化し、畳表の擦れ・破れ・汚れが顕著となり、利用者アンケートにて不満の声をいただいております。

従前は使用不可の状態になった畳を、1枚ずつ都度新品へ交換していましたが、新しい畳はカビが吹きやすく、日に焼けて安定するまでこまめに拭き上げる必要がありました。

快適な研修環境・健康上の懸念の払拭・拭き上げ作業の低減を目指し、本館宿泊室の利用頻度の高い部屋の畳をメンテナンスフリーの畳へ表替えを行いました。



○本館宿泊棟の掃除用具の刷新

本施設は教育施設であるため、自立心の向上を目指し、自分が使った部屋は自分で掃除することを基本とし、次に部屋を使う人のことを思いやる「思いやりのリレー」を提唱しています。

しかし、年々宿泊棟の掃除が徹底されなくなり、利用者アンケートでの不満の声が高まっていました。掃除徹底の声かけや張り紙の掲示も行いましたが、功を奏す

ことなく、職員で仕上げ掃除を行っていました。

このままでは本来の教育目的を達成することができないため、どうすれば子ども達が掃除をやりやすく、進んで行えるかを考え、最近の子ども達にとって馴染みのある、ハンディー掃除機を宿泊棟に設置しました。

設置から数ヶ月間効果を検証したところ、子ども達は進んで宿泊棟の掃除を行うようになり、「思いやりのリレー」がこれまで以上につながるようになりました。



○館内掲示の刷新・多言語化

施設内の案内掲示は、開所時に作成された物や職員が手作りで物が混在し、記載情報が古い物や日焼けし読み辛くなった物が散見されていました。

また、記載言語は日本語のみであったため、昨今増加している外国人利用者には不親切な掲示となっていました。

そのため、統一デザインで日本語・英語・中国語・韓国語の併記と、ピクトグラムを使用し、視認性を高めるため可能な限り大きい館内掲示を作成しました。



○I-CAP 用品の更新

本施設が目玉プログラムである I-CAP (諫早コミュニケーションアドベンチャープログラム) の用具に、細かな傷や擦れ、欠けが目立つようになっていました。

また、ここ数年 I-CAP の広報に力を入れた結果、プログラム実施希望団体も増え、用具が足りなくなる場面も出てきたため、劣化した用具の更新と用具数の追加を行いました。



IV 施設業務運営委員会

(1)委員名簿

(令和8年3月現在)

	氏名	職名
1	☆小原達朗	長崎大学名誉教授
2	池田尚	諫早市人材育成コーチ(地域子育てコーディネーター)
3	平山仁	長崎県レクリエーション協会専務理事
4	◎野口美砂子	NPO法人インフィニティー理事長
5	菅原良子	鎮西学院大学総合社会学部経済政策学科教授
6	井崎健一郎	長崎県立諫早東高等学校校長
7	中路知恵	東彼杵町立千綿小学校校長
8	奥村公子	長崎県シェアリングネイチャー協会理事長
9	後藤慶太	学校法人鶴鳴学園長崎女子高等学校校長
10	水畑順作	学校法人純心女子学園長崎純心大学人文学部文化コミュニケーション学科教授 地域連携センター長

◎委員長 ☆諫早青少年自然の家アドバイザー

(2)開催状況

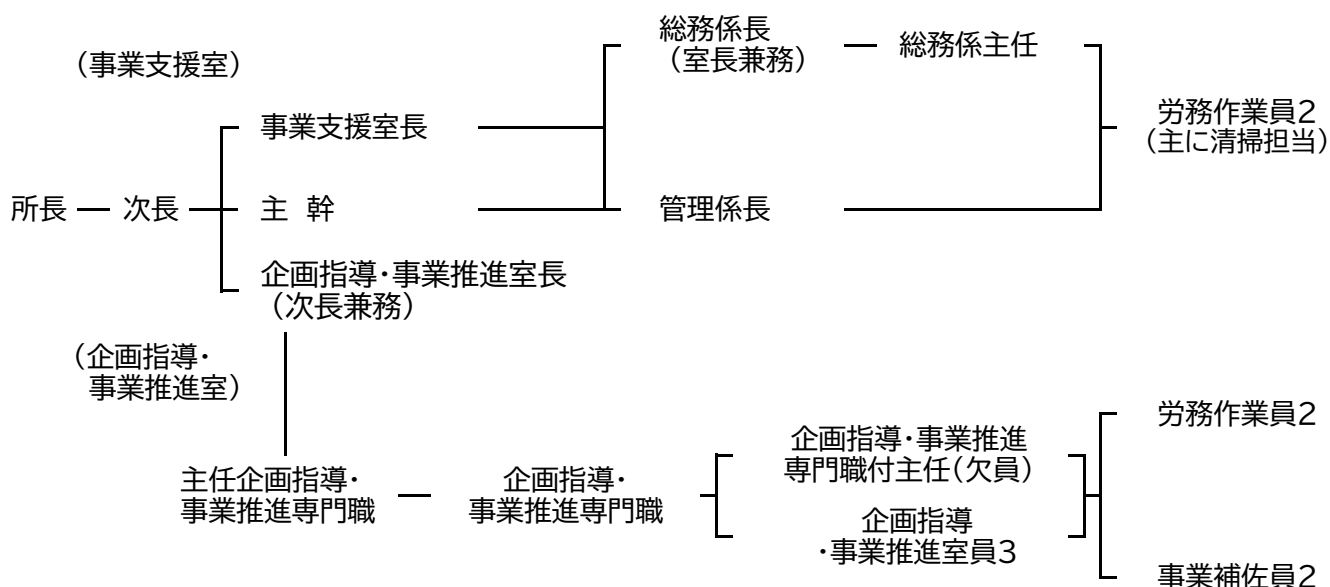
令和7年度の施設業務運営委員会実施状況は下表のとおりです。

	期日(会議形式)	議題等
第1回	令和7年6月25日 (対面形式)	(1)新委員紹介、委員長・副委員長確認、委員長挨拶 (2)令和6年度「重点3項目」実践報告 ①一人ひとりが広告塔“みんなが広報”の実践 ②スポーツ等体験活動に機軸を置いたI-cap (チームビルディング)の普及 ③フィールドを活かしたプログラムの開発試行 防災・減災教育プログラム (3)所長挨拶及び令和7年度経営方針説明 (4)グループ協議 テーマ「アウトリーチ活動による 諫早の体験活動の活性化に向けて～ターゲットを 絞って、諫早アウトリーチ活動の可能性を探る～」 (5)全体共有 ○全体意見交換 ○所長よりお礼

V 組織図・職員名簿

(1)組織図

(令和8年3月現在)



所長1	次長1	室長・主幹・主任専門職3	係長・専門職2	主任1	室員3	非常勤職員6	計 17
-----	-----	--------------	---------	-----	-----	--------	------

(2)職員名簿

職名	氏名
所長	蓮見 直子
次長(兼)企画指導・事業推進室長	小野下 和宏
主幹	上戸 正仁

(事業支援室)

職名	氏名
事業支援室長(兼)総務係長	田崎 雅徳
管理係長	上原 貴之
総務係主任	三木 和昌
労務作業員	長門 和治
	堀 恵子

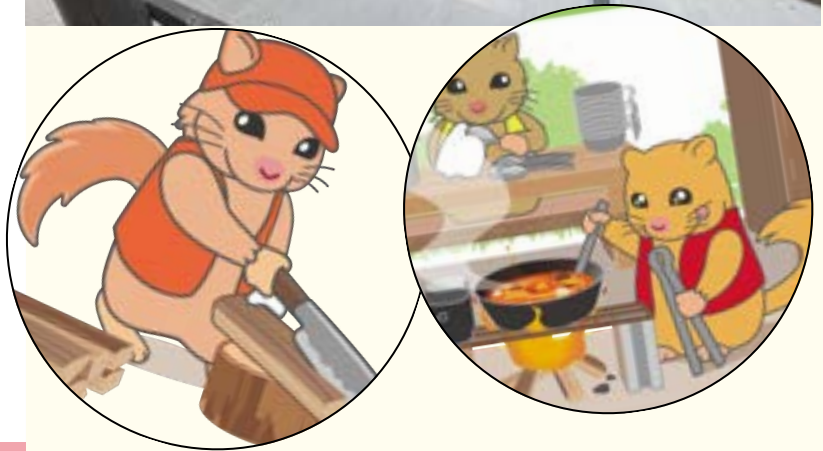
(企画指導・事業推進室)

職名	氏名
主任企画指導・事業推進専門職	中里 文彦
企画指導・事業推進専門職	戸越 信吾
企画指導・事業推進室員	高山 雄也
	日高 由樹
	吉田 流風
事業補佐員	松尾 天仁
	林田 百代
労務作業員	土井 和博
	岩永 安好
学生サポーター	堀内 大翔

自然の家 NEWS

自然の家「野外炊飯棟」がリニューアル！

令和8年3月に野外炊飯棟（1棟）をリニューアルしました。土の地面から、コンクリートにかえたので車椅子ユーザーの方も含め、今まで以上に安全、安心してご利用いただける環境が整いました。引き続きたくさんの皆さんにご利用いただけることを楽しみにしています。



自然の家は、SDG s の取組の一環として、ペーパーレス化を進めています。イベントチラシを、紙に印刷・配布することはできるだけ控えています。ぜひ、LINEの登録やインスタグラム等をフォローいただき、最新情報をお受け取りください。



